

中国からの技能実習生への建設技能
移転高度化モデル事業

報 告 書

平成23年3月15日

協同組合 メディアバンク・エデュケーション

目 次

- 1、事業テーマ
- 2、事業概要
- 3、取り組むに至った背景・目的・必要性
 - (1) 事業の背景
 - (2) 事業の目的・必要性
- 4、事業内容
 - (1) モデル事業の全体像
 - (2) 事業の実施事項と手順
 - 1) 来日前(日本語検定4級レベル)
 - 2) 来日後(日本語検定2級レベル)
 - (3) 事業実施内容
 - 1) 現状把握の為の調査項目
 - 2) 調査結果の整理
 - 3) 問題点
 - 4) 調査状況
 - 5) 旧プログラムについて
 - 6) 新プログラムについて<日本語検定4級レベル>
 - 7) 新プログラムについて<日本語検定2級レベル>
- 5、事業実施体制
- 6、実施スケジュール
- 7、取り組みの効果
- 8、課題及び対応策
- 9、今後の見通し・展開

事業者名および代表者名

事業者名	協同組合 メディアバンク・エデュケーション
代表者役職、氏名	代表理事 中西 信人

事業者の概要

所在地	〒134-0091 東京都江戸川区船堀4丁目9番8 301号
設立時期	平成10年1月16日
設立経緯	1996年頃から広島・岡山地区の企業・個人十数社が、地域経済活性化の為に情報交換会を毎月1度開催しておりました。会員の内、建設業や製造業の方から、共同購買の話が出始め1998年1月に法人として、協同組合メディアバンクエデュケーションを正式に立ち上げました。組合員の中から国内での共同購買だけでなく、海外から資材購入はできないかという問い合わせから派生し、中国を始め海外途上国への技術移転など研修生の受け入れなどを開始いたし現在に至ります。
事業概要	<ol style="list-style-type: none"> 1、組合員の事業に関する国際情報等の調査及び提供 2、組合員の事業に関する新製品・新技術の研究開発 3、組合員の取り扱う副資材等の協同購買 4、組合員のためにする外国人技能実習生共同受入事業 5、外国人技能実習生受け入れに係る職業紹介事業 6、組合員のためにするインターネット電話接続設備の設置及び管理運営 7、組合員の事業に関する経営及び技術の改善向上又は組合事業に関する知識の普及を図るための教育及び情報の提供 8、組合員の福利厚生に関する事業 9、前各号の事業に付随する事業
構成企業数（団体のみ）	213社
業種分野	外国人研修・技能実習生共同受入事業
役員および職員数	役員 4名 職員 25名
資本金（基本財産）	684万円

調査報告書についての問い合わせ窓口

事業者名	協同組合 メディアバンク・エデュケーション		
担当者氏名（役職）	代表理事 中西 信人		
電話	084-926-4636	FAX	084-926-4659
eメール	mbe@mbe.ne.jp	URL	

1、事業テーマ

来日前及び来日後の日常会話力向上のための研修プログラムの策定および習得した日本語レベルのデータベース化の取り組み

2、事業概要

送り出し機関との連携により、来日前の技能実習生の適性（本人の習熟度）を把握し、来日後の企業内実習を効率的に履行する為に、導入効果を念頭においた適切かつ的確な来日前研修プログラム（日本語検定4級合格レベル）の策定及び来日後の日本語検定2級以上合格のための教育プログラムの策定を行い、習得した日本語レベルのデータベース化の取り組みによって実習期間のみならず実習終了後、海外進出する日系企業への支援体制の構築及び日系企業の懸け橋となり、中核を担う人材を育成し、将来的には業界全体としての展開に活用するモデル事業です

3、取り組むに至った背景・目的・必要性

（1）事業の背景

当組合では「旧研修生制度」が発足以来、制度に基づく外国人研修生を受け入れ、研修等を実施している。技能レベルの習得目標については、技能検定を受験させ、達成状況を確認している。技能検定は研修生が技能実習生に資格変更する際に必ず合格しなければならない試験である。受け入れ企業へのヒアリングを行う際、必ず指摘される事項が技能実習生の日本語レベルのばらつきや、日本文化・風習・風土への理解の低さであった。職場での意思疎通はもちろんのこと、寮生活を行う際に付近の住人との文化の違い、言語の壁による近所付き合いへの諸問題、来日してからの日本と中国との生活習慣の違い等、技能実習生の生活面の不安も多く、通訳や職場の仲間のフォローでは対応に手間取る場面も多くみられた。また、日本の技術を継承する際も、言葉の受け取り方の違いにより、想像以上に時間を取られる場合もみられ、本制度の目的である国際貢献・国際協力の趣旨に完全に対応ができず、日本全国でただ格安の賃金による3K職場での従業員として扱われ、途中帰国や集団脱走などの問題も新聞紙上等で報道されてしまっているのも事実である。

このような現実を冷静に見つめ直し、今までの来日前研修の内容、適性の把握が各送出機関に一任していた、若しくは主導権があった場合が多く、来日後

の日本語レベルのバラつきが目立ち、技能習熟に差が生じていたものを、いかに技能実習生が日本文化や風土を送り出し機関による教育に一任するだけでなく、日本側からも積極的に働きかけ、日本語教育と同時に視覚的・聴覚的内容で理解を深めてもらい、本制度の目的を十二分に果たせる状況、総合的なプログラムの作成と実施（研修レベルに応じた効果的なシステムづくり）は必要となっている。

（２）事業の目的・必要性

背景と課題を踏まえると、来日前研修から技能実習期間における制度の課題の整理、研修目標の設定、目標達成に向けた研修等育成プログラムの作成、及び連携体制の構築、研修・実習指導体制の整備など、具体的な運用計画の作成が必要である。

本モデル事業では、来日前研修から技能実習への展開に必要な基礎知識・日本語を習熟し、同時に来日後日本に早く溶け込めるよう日本語基礎カリキュラムとテキスト作成（視覚的・聴覚的理解を深め、同時に日本文化・風土の理解を深める映像教材作成等）を行うものとする。

具体的には、来日前研修時に、日本側より日本語講師を派遣し、テキストの運用やカリキュラムの徹底を行い、来日時に確実に日本語検定４級レベルに習熟することにより来日後の技能実習を円滑に行える体制にする。

また来日後、技能実習の効率を高める為に新テキストを作成し、新カリキュラムを実施することにより、日本語検定２級レベルに習熟させる研修体制を構築する。

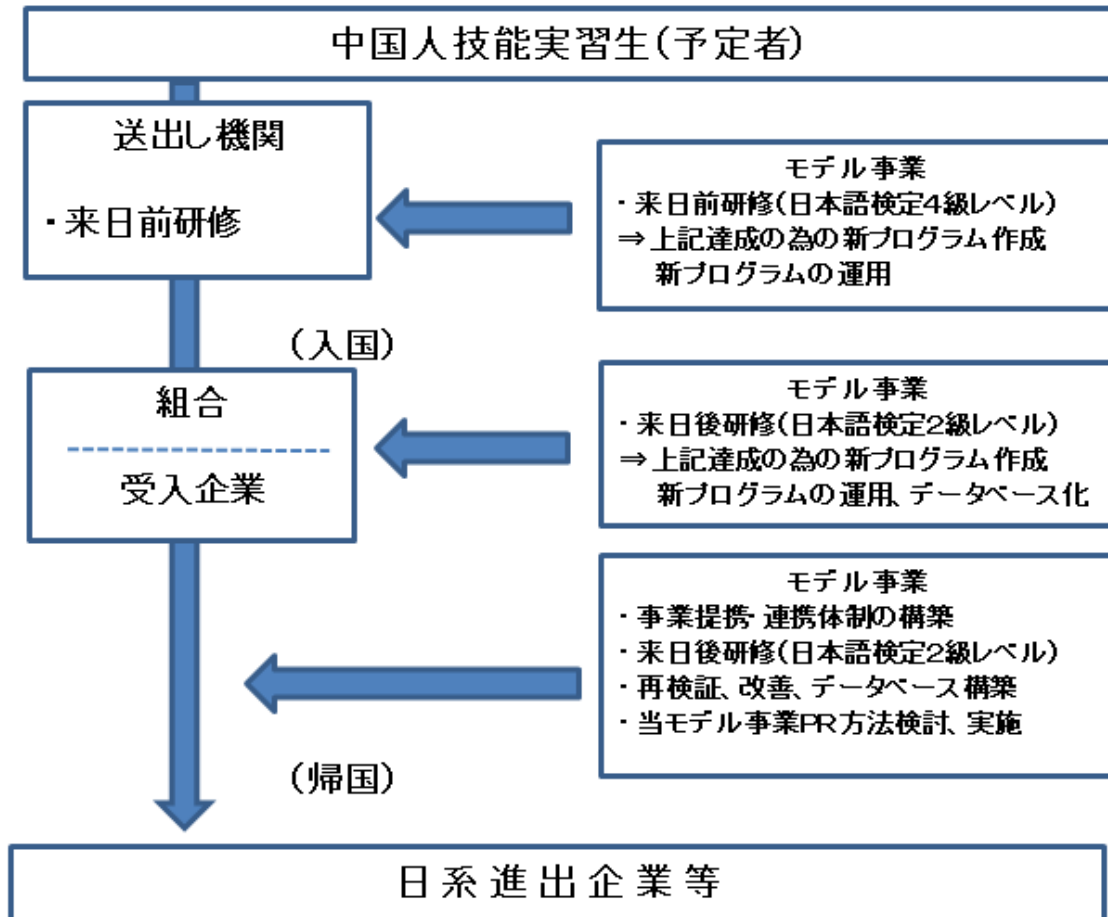
本事業を確実に実施する体制作りを行い、平成２３年度からは本事業の成果を基に運用・実施を図り、技能実習制度の充実・拡大、他業種への応用等へ活用したいと考えている。

また、平成２４年度には、習熟した技能実習生を管理するデータベースを作成し、情報提供できる体制を構築し、将来、海外進出する日系企業への支援体制の構築及び日系企業の懸け橋となり、中核を担う人材を育成し、将来的には業界全体としての展開に活用したいと考えている。

4、事業内容

(1) モデル事業の全体像

本事業と外国人技能実習制度との関係の全体像は、次に示すとおりである。



< 次年度以降の計画 >

平成23年度 分析、情報提供

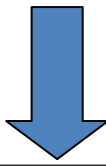
平成24年度 当モデル事業データベース化
当事業周知化、支援体制構築

(2) 事業の実施事項と手順

本事業の実施事項の項目と内容、実施手順は次のとおりである。

1) 来日前(日本語検定4級レベル)

《実施項目》	《実施内容》
① 来日前研修プログラムの運用上の課題の整理	<p>○実施内容 技能実習生予定者の現時点での学力の測定、プログラム、受入体制、教育環境、研修等結果の評価、技能実習生予定者の処遇などに関する課題について調査及び整理し、今後の研修等プログラムや体制等構築に向けた参考資料とする。</p> <p>○実施方法 外国人技能実習生を受け入れている企業へのヒアリング調査や日本側の日本語講師等専門家の派遣による。</p>
② 研修等達成目標の設定	<p>○実施内容 来日前に日本語検定4級レベル同等試験合格、項目毎標準化リスト作成、技能実習生日本語レベル進捗表作成</p> <p>○実施方法 課題の整理結果を踏まえ、検討委員会で検討し設定する。</p>
③ 研修・技能実習に係る研修等プログラムの作成	<p>○実施内容 課題の整理結果を踏まえ、研修から技能実習の一連の研修等育成プログラムを作成する。プログラムの骨子は、来日前研修プログラムの検証→標準化リスト・進捗表作成→新プログラム作成(映像教材、日本語検定4級レベル試験作成等) →新プログラム検証→フォローアップ研修で構成する</p> <p>○実施方法 中国への日本語講師等専門家派遣調査。 検討委員会で検討し決定する。</p>

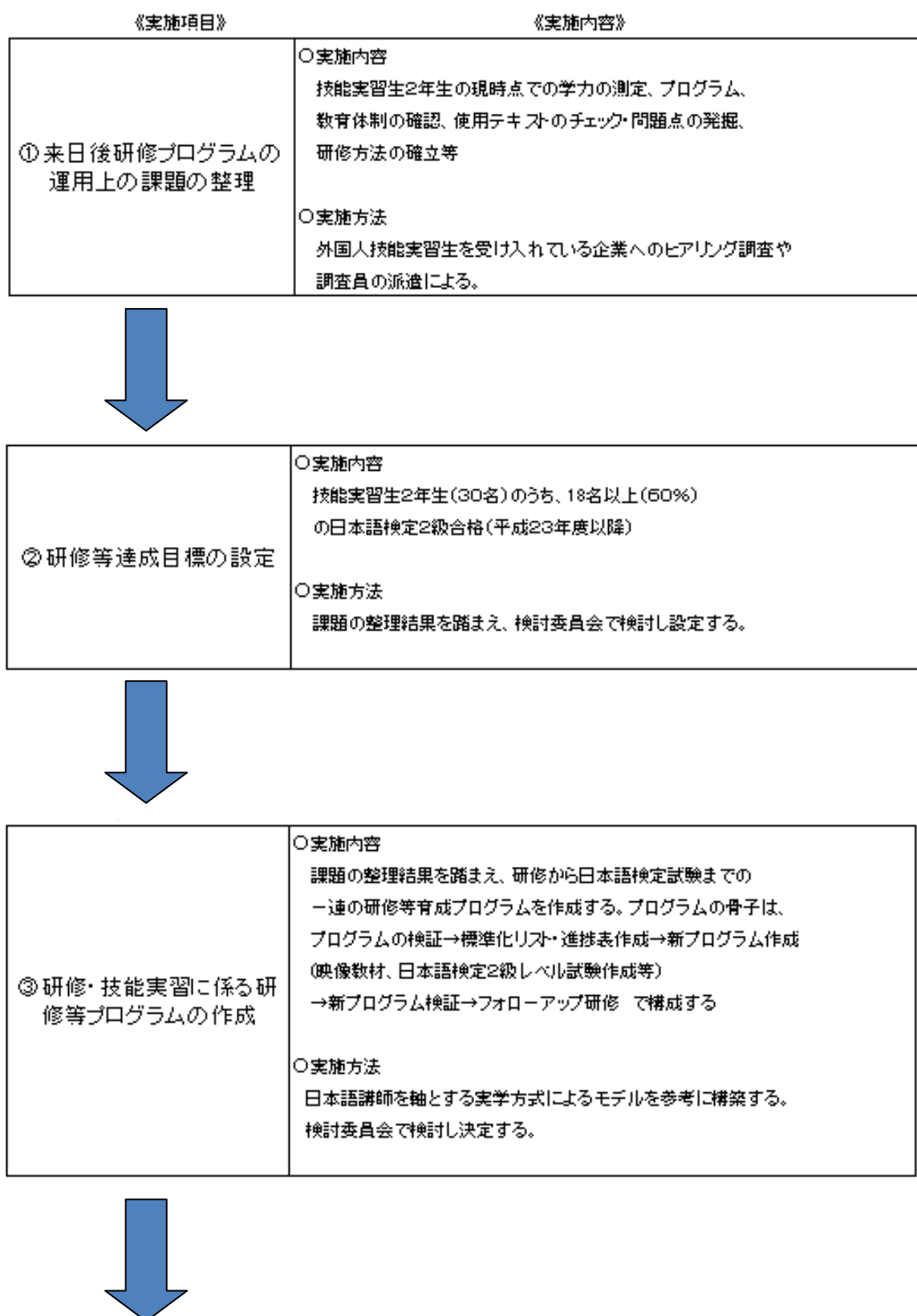


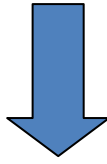
<p>④ 日本語基礎研修カリキュラム及びテキストの実施</p>	<p>○実施内容 日本語研修初期段階で、映像媒体による視覚的イメージでの学習は極めて効果が高い。日本語のみならず、日本の風土・文化を同時に学習し、来日後、溶け込みやすくすることはその後の学習効果にも好影響を与える。日本より派遣した調査員報告を参照し、より学びやすく、項目毎標準化リストにより不得意分野を洗い出し、進捗表を掲示することで技能実習生予定者間での競争心を駆り立てる。熱度試験の効果を測定し新プログラムのレベルアップを図る。</p> <p>○実施方法 現行の日本語検定教科書を勘案し、受入企業や日本より派遣した調査員報告を基に作成する。テキストは来日前及び来日後の教育に内容に応じた映像教材を作成し、資格的・聴覚的に理解できる構成とする事務局で素案を作成し、検討委員会で検討し決定し実施する。</p>
---------------------------------	--



<p>⑤ 運営及び研修体制の構築</p>	<p>○実施内容 来日前研修、来日後研修、日本語検定試験の各段階における運営及び研修体制を統合的に構築する必要がある。 そのため、当組合、企業が連携・協同して推進体制を構築する。</p> <p>○実施方法 関係機関と協議・検討して具体的な役割を設定する。事務局であらかじめ協議・調整を行い、検討委員会で決定する。</p>
----------------------	--

2) 来日後（日本語検定2級レベル）





<p>④ 日本語基礎研修カリキュラム及びテキストの実施</p>	<p>○実施内容 日本語研修で、聴解力を上げ、実践的な日本語教育プログラムを作成する。具体的には映像テキストや音声テキストを活用し、現在多く行われている「試験の為の学習」ではなく、日本語への疑問を解決し、学習効果が高まるのを実感して、学習が楽しいと感じる研修を行う。また、辞書を引き、自分で調べる姿勢も身に付けさせる。(平成23年度以降)</p> <p>○実施方法 現行の日本語検定教科書を勘案し、受入企業や日本より派遣した調査員報告を基に作成する。 検討委員会にて素案を作成し、実施する。</p>
---------------------------------	---



<p>⑤ 運営及び研修体制の構築</p>	<p>○実施内容 受入企業、組合が連携し、運営及び研修体制を総合的に構築する必要がある。その為、連携・協同して推進体制を構築する。</p> <p>○実施方法 関係機関と協議・検討して具体的な役割を設定する。事務局であらかじめ協議・調整を行い、検討委員会で決定する。</p>
----------------------	--

検討委員会の構成（名簿）

検討委員会の構成及び選定理由は以下のとおりである。

氏名	所属等
中西 信人	当組合の代表理事。組織運営の中心的役割を果たしており、当会の運営が効率的に実施できる
茅本 良夫	当組合の専務。技能実習制度に精通しており、専門と技能者育成の両面からの高い知見が活かされる。
長島 清二	技能者育成の専門家及び建設業界の造詣の深さが育成プログラム、カリキュラム、テキスト等の作成に反映することができる。
金 日洙	日本語講師。長期にわたる日本での生活経験と、講師経験により中国での日本語教育の問題点を把握している。

（３）事業実施内容

本事業を実施した結果の内容を以下に述べる。

１）現状把握の為の調査項目

調査計画

対象： 受入実績のある日本の受入れ企業を対象とした。

内容： 課題抽出に必要な事項（下記に示す）を設定した。

ヒアリング先 <名称、担当者等>

受入内容<職種、受入国、受入期間、人数>

達成目標<受入時の目標設定、終了時の達成状況>

研修・実習プログラム<日本語教育の全体プログラム、段階における具体的カリキュラム等>

受入体制<部署、役割分担等>

指導体制<研修・実習の指導体制の部署、対応について>

研修等結果の評価<段階ごとの評価方法、評価の結果>

技能実習生の処遇<賃金、休暇、生活面への支援等>

受入等に対する課題<問題点、課題、要望等>

方法： 調査項目を記載したヒアリングシートを作成し、企業担当者への聞き取りを行った。

2) 調査結果の整理

受入内容<職種、受入国、受入期間、人数>

職 種	受入国	受け入れ時期	人数
建設業関係	中国	2010年12月14日	20名
製造業	中国	2010年12月14日	10名

達成目標<受入時の目標設定、終了時の達成状況>

<受入時の目標設定>

3カ月間 : 日本語技能検定4級レベル

4~12カ月: OJT、技能検定試験基礎2級

<終了時の達成状況>

現場で使用する日本語の理解が難しい。

2期生は1期生と母国語で会話するので日本語の習得速度が遅い。

方言が入ると理解力が落ちる。

研修・実習の指導体制の部署、対応について

研修実施予定表を作成し、実施されている。

非実務研修の内容: 日本語、日本社会、日本習慣、安全教育、専門用語・日本語、各業務の一般知識など。【時間数: 約100時間】

研修・実習プログラム

技能実習計画書を作成し実施しているが、事前研修での日本語教育が、不十分な為に入国時の日本語レベルが低過ぎ、技能実習計画書がうまく機能していない。

日本語研修については定期的に組合や送出機関側の人間が行っているが計画的なプログラム、効果のある学習方法や効率的なテキストがない為、時間をかけた割には、日本がレベルの向上が不十分である。

日本語研修については定期的に組合や送出機関側の人間が行っているが不十分である。

日本語レベルが低い為、技能伝達・実習を行っても理解が不十分である。

* 対策として、事前研修時の日本語教育を抜本的に見直し、日本側から講師を派遣するなどの対策を立て、日本側主導による効率的なカリキュラム、テキスト等を整備し、指導する事により入国時の日本語のレベルアップを図ると共に、入国後の技能実習期間を通じて日本語教育を継続的に実施する事により技能伝授・実習の効率化を図る。

受入体制 <部署、役割分担等>

工事部へ配属。

製造部へ配属。

現場担当者（外注先監督を含む）の指導のもと、職方として。

指導体制 <研修・技能実習の指導体制の部署、対応について>

総務部が担当。

初年度は特に日本語教育、安全教育に注力して実施。

研修結果の評価 <段階ごとの評価方法、評価の結果>

方法：研修終了時に技能検定試験を受験。

結果：全員が合格する。

現場と試験で使用する日本語に乖離がある為、実用性に即さない面もみられる。

技能実習生の処遇 <賃金、休暇、生活面への支援等>

賃金は最低賃金を反映しているが、会社が暇な時は実習時間が定時で終わる為、残業賃金がない企業と忙しい企業とでの格差があり、不満が出ているところもある。

1年単位での変形労働時間制を採用している企業とそうでない企業との格差により、技能実習生間での格差が問題となっている。残業、休日出勤については各企業規定通り行っているが、技能実習生間で日本語能力が高い者ほど、より多く出勤している傾向が見られる。

* 対策として、技能実習生となる面接及び事前研修時に各企業の特徴や制度、規則等を事前にレクチャーして納得して来日させることが必要である。

受入等に対する課題 <問題点、課題、要望等>

技能実習の3年間では短すぎるため、高い品質で仕上げる技術の習得や、日本語がまだ不十分なため、現場を任せられるまでには至らない。

会社負担費用が多い。

<現状把握の為の調査 ヒアリングシート>

外国人技能実習生、日本語レベル調査

企業名、調査協力ご担当者様を教えてください

企業名

ご担当者様

受入内容（業種、受入国、受入期間、人数）を教えてください。

達成目標（受入時の目標設定、終了時の達成状況）を教えてください。

研修・実習プログラム（全体プログラム、各段階における具体的なカリキュラム）を教えてください。

受入体制（部署、役割分担など）を教えてください。

指導体制（技能実習の指導体制の部署、対応について）を教えてください。

研修等結果の評価(段階ごとの評価方法、評価の結果)を教えてください。

技能実習生の処遇（賃金、休暇、生活面への支援等）を教えてください。

受入等に対する課題（問題点、課題、要望等）を教えてください。

ご協力、ありがとうございました。

3) 問題点について

【中国側（送出機関）の問題点】

- ・ 例題文（様々な場面を想定した日本語の例題）が少ない。
最低限の基礎は押さえているが、応用が効かず、来日後に戸惑う技能実習生の姿が目立つ。
- ・ 日本語を教える講師が現地人である。
発声がどうしても違うため、来日後、特に聴解力に難がでる。その結果、技能実習上で障害が出てしまう。
- ・ 事前教育での日本文化・風土のイメージが技能実習生にうまく伝わらない。
来日後、生活圏住人とのコミュニケーションがうまくとれず、トラブル等の原因となる場合も多い。また、ホームシックの大きな原因と考えられる。
- ・ 日本側からの意見反映がされにくい。
受入機関からのフィードバック機能が機能していない場合が多く、教育を送り出し機関・事前教育機関に一任している場合が多く、必要とされる日本語レベル（読解力・聴解力等）の問題が解決できない状態にいる。
- ・ 技能実習生自身のレベル把握・問題点をつかんでいない。
自習時、復習時等、自分自身がどの部分が得意・不得意で、どのように学習し、どうやればよいかの計画をうまく立てれない。
- ・ 来日後、生活する地域の方言に戸惑う技能実習生が多い。
教科書に載っている日本語は標準語だが、現実には様々な方言等があり、聴解が難しい。
- ・ 日本語の語彙を教えても、技能実習生が日本語の内容をイメージしにくい。
段階的な教育プログラムでないため理解が難しい。
- ・ コストばかり考えレベルの低い教師（多くは日本に来たことがない）を採用している。
日本語は理解できても、教えるレベルに達していない日本語教師がいる。
- ・ 授業内容に音声や映画などの利用が少ないため、場面イメージが浮かばない。
効果を考えず、既存の語学テキストのみで授業を行っている。
- ・ 礼儀作法や日本人の習慣等を教えない、教えたとしても身につくまで訓練しない
日本人の礼儀や習慣の意味を教えずに、見た目の動作のみ訓練している。

- ・日本に実習生を送る目的は単なるお金の稼ぎと考えていて、技術修得や技術を母国で生かすなどの発想がない。

技能実習制度の本来の意味を理解していない。

4) 調査状況

受入企業側（日本）の状況調査



受入企業へのヒアリング調査
受入側が考える技能実習生の日本語レベルの問題点等、忌憚のない意見を伺った

受入企業へのヒアリング調査
受入企業で働く技能実習生からも意見を聞き、来日前や来日後の学習方法や意見要望等、幅広く調査を行った



受入企業へのヒアリング調査
技能実習生を受け入れている協同組合にヒアリングを行った。
全体的な日本語のレベル、教育方法、問題点等、専門的な視点からの意見を聞くことができた。

中国側 < 送出機関調査状況 >
日本人調査員による調査、ヒアリング結果



大連市建設学校訓練基地の看板。
様々な施設、建設機器、訓練風景
が紹介されている。
また、日常生活風景も紹介されて
おり、一目で訓練内容がわかるよ
う工夫がされている。

大連市建設学校訓練基地の正面。
日本の学校とは比較にならない
ほどの広大な敷地と建設機械(ク
レーン等)がある。





大連市建設学校訓練基地内。
このように広大な敷地に本格的な建設用クレーンが設置されており、実際の建設現場を想定した訓練を行うことが可能である。

中国側 < 送出機関調査状況 >



調査員によるヒアリング。
実際に教育を受ける側からの声も聞き、教育する側・受ける側双方の生の声を反映するべく調査を行った。
その際、現在使用しているテキスト等の問題点も聞き出すことに成功した。

調査員によるヒアリング。
訓練を受ける教室の中でも小さな部屋で新教材作成のための現状把握のヒアリングを行った。
意図は一人の講師が何名程の生徒を相手にできるかの状況把握を行う点である。





通常の教育・訓練風景。
大きな教室で、大勢の生徒を相手にしている為、後ろの席では声が聞き取りにくく、質問に対する受け答えも時間の関係で満足にできていない状況だった。

中国側 < 送出機関調査状況 >



朝の朝礼風景。
毎朝朝礼を行い、日本のラジオ体操を行ってから基礎体力訓練のランニング(3キロ前後)を行う。集団生活を通して、日本人の「和」の精神を学ぶ。

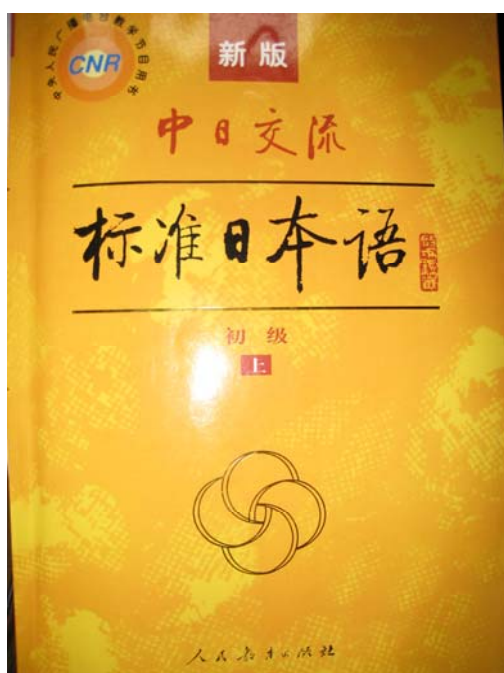
日本語の小テスト風景。
小テストは旧プログラムにて、日本語検定4級レベルにどれだけ達しているかの確認テストである。



日本側より調査員を派遣し、中国側送出し機関、教育実施機関の現状調査を行った。

また、送出し機関・教育実施機関側の意見だけでなく、教育を受けている技能実習生予定者にもヒアリングを行い、教育する側、教育を受ける側双方の意見聴衆を行い、問題点の発掘、改善点調査、意識調査等、多岐にわたる調査を行った。

5) 旧プログラムについて 旧プログラム使用教材



左記は現在ほとんどの送出し機関・教育実施機関にて使用されているテキストである。

例題文が少なく、イメージによる理解がされない状態で教育を行うので、応用力がなく、また、テキストのみによる教育が殆どで聴解力に難が発生してしまう。

また、映像による教材がない為、視覚的イメージによる教育ができない。

技能実習生予定者からのヒアリング調査でも、問題数は多いが、どのような状況でこの日本語を使うのか把握できないまま教育されているケースも散見した。

また、目次等で分けられている内容の区分けが「第1課 李さんは中国人です」「第14課 昨日 デパートへ行って、買い物しました」のような表現で、この課で何を教えたいのかわからず、会話レベルだけアップした単なる例文記載しかない。

その為、映像を使用したり、どんな場面で使う会話なのか等が理解できるように、使用教材を大きく見直す必要があるとの調査報告だった。

旧プログラム教科内容

第1課 李さんは 中国人です。

2課 これは 本です。

3課 ここは デパートです。

4課 部屋に 机と いすが あります。

- 5課 森さんは 7時に 起きます。
6課 吉田さんは 来月 中国へ 行きます。
7課 李さんは 毎日 コーヒーを 飲みます。
8課 李さんは 日本語で 手紙を 書きます。
9課 四川料理は 辛いです。
10課 京都の 紅葉は 有名です。
11課 小野さんは 歌が 好きです。
12課 李さんは 森さんより 若いです。
13課 机の 上に 本が 3冊 あります。
14課 昨日 デパートへ 行って、買い物しました。
15課 小野さんは 今 新聞を 読んで います。
16課 ホテルの 部屋は 広くて 明るいです。
17課 わたしは 新しい 洋服が 欲しいです。
18課 携帯電話は とても 小さく なりました。
19課 部屋の かぎを 忘れないで ください。
20課 スミスさんは ピアノを 弾く ことが できます。
21課 わたしは すき焼きを 食べた ことが あります。
22課 森さんは 毎晩 テレビを 見る
23課 休みの 日、散歩したり 買い物に 行ったり します。
24課 李さんは もうすぐ 来ると 思います。

旧教材の科目をただこなすだけで、日本語語彙や発声、文法などに区分けしたカリキュラムになっていない。

また、それぞれにどれだけの時間を配分するかも明確に決まっておらず、授業のカリキュラムとして非常に未熟なレベルであった。

期間内に教材をこなす事ばかりに気を取られ、どれだけ内容が充実し、日本語能力が身につくかという発想がないのが現状である。

旧プログラム実施状況

- ・多数の実習生予定者を少数の講師が教える場合が多く、質疑応答も十分でないため、日本語習得レベルに大きくばらつきが生じてしまう。また、スライドや映像をほとんど使用しないため、イメージをつかめずに日本語の理解に時間がかかる。日本文化や価値観、道徳等の授業も非常に少なく、来日後の文化の違いによりホームシックになったり、付近の住人とのトラブルになるケースもみられる。従って、単に日本語を形式的に教えればよいという事前

教育機関の考えを根本的に改善していく必要がある。

特に道徳観や日本人の考え方、文化の違いの教育にも重要視しなければ、来日に希望を燃やす実習生であっても、モチベーションの低下等を招く危険性がある。

本事業により、日本語の学習自体を楽しく思ってもらい、各個人が積極的に日本語を覚えようと思える環境作りから始める必要があるとの結論に至った。

6) 新プログラムについて<日本語検定4級レベル>

1 改善内容、検討内容について

教材の作成

映像教材の作成

日本のポスター、掲示物の有効活用

5S等、日本の価値観やマナーの教育

安全教育等、机上ではなく実体験させる場の強化

日本語講師のレベル向上

受入機関からの意見のフィードバック

改善点の実施及びその後の調査、問題点の洗い出し



技能実習生予定者へのヒアリング風景。教育を受ける側からの改善提案は初めてだったらしく、戸惑いはあったが貴重な意見を聞くことができた。

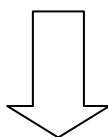
調査員（前列右端）と現地で調査に協力してくれたメンバー。

日本の受入企業の方が中国に来ていたので、送出し機関の見学も行ってもらい、忌憚のない意見交換ができた。

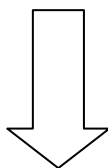


2 来日前研修用日本語教育カリキュラム及びテキストの作成

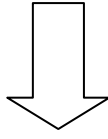
来日前研修時に実施する新プログラムのカリキュラムとこれに必要なテキストを作成する。テキストは紙媒体と映像テキストを使用する。



日本に来日してから、技能実習を始める前に、基礎的な日本語の読解力、日本文化や風土、社会常識を習得し、技能実習期間中のみならず実生活でのトラブルを防ぎ、技能の習熟や地域社会との融和が図れるようにするのが目的とする。

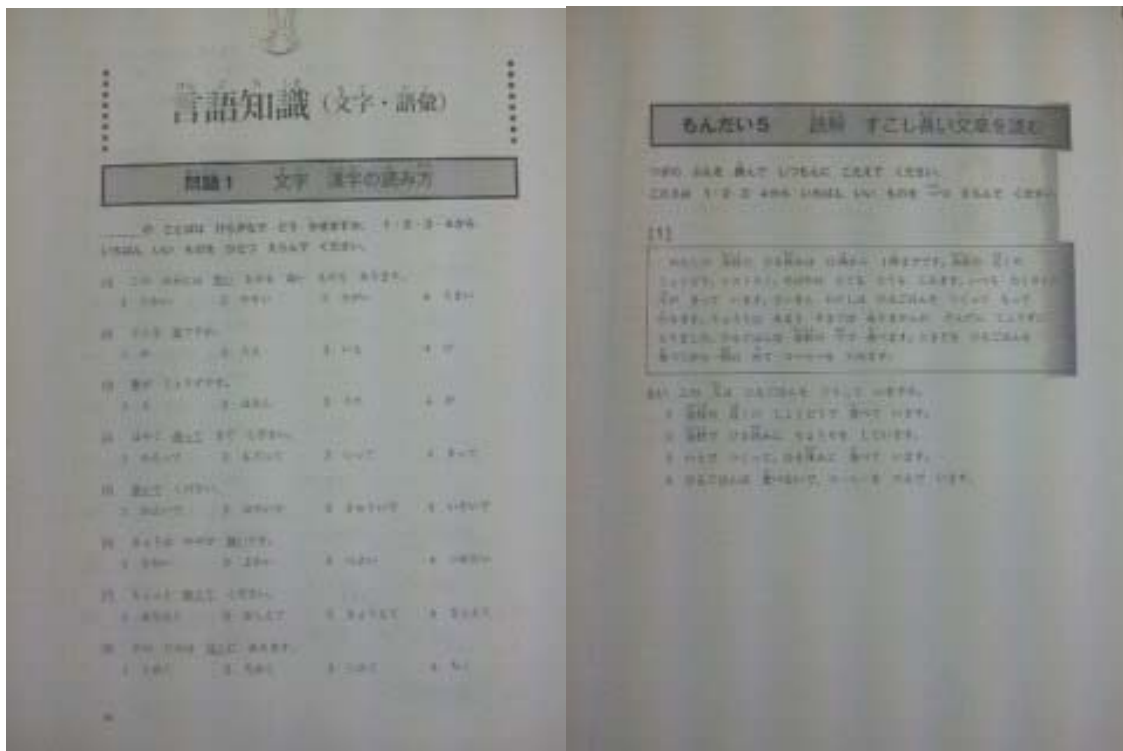
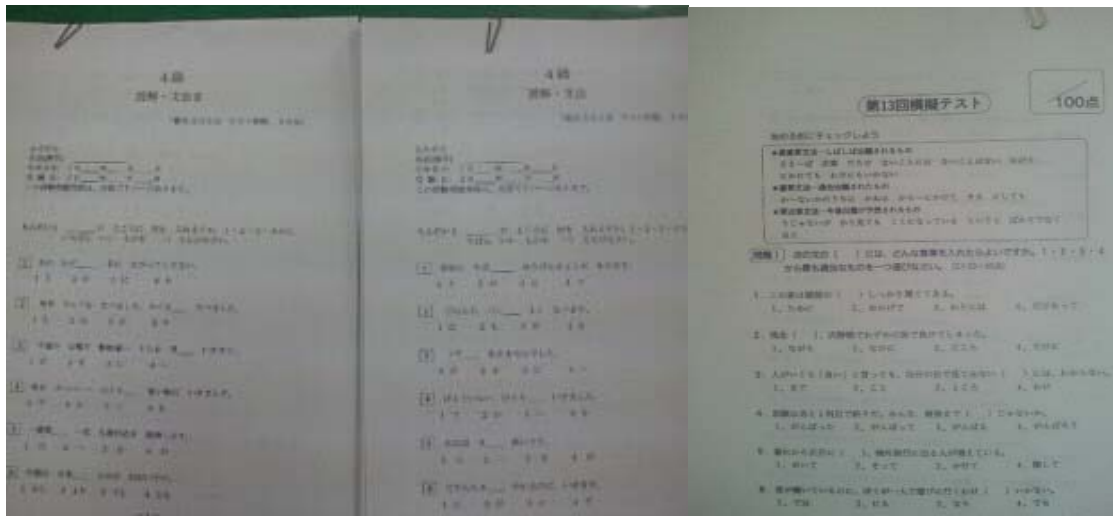


日本での生活の中で、近隣住民とのトラブルを防ぐには、日本語能力を身につけながら、日本文化・風土を知ってもらう必要がある。そこで、映像教材を活用し、日本語習得と同時に文化・風土の理解を図る必要がある。映像教材に関して、高度経済成長時代の日本の映像を見せることにより、技能実習制度の趣旨を再確認してもらい、日本語習得へのモチベーション向上につなげるよう配慮する。また、日本文化や風土、会社での人間関係等、日本と中国の考え方の違いも映像教材により理解できるようにする。



受入企業の工事現場で実務研修を実施するにあたっては、日本語の聴解、読解力がなければ、安全管理および技術修得の理解や習熟に差がでるケースがある。よって、来日前に全員を対象として、確実に日本語検定4級レベルの力を取得する。

3 新プログラム使用教材



オリジナル教材

日本語彙、文法、基本的な単語、文例の4つの分野に分け、日本語講師が作成した。

新プログラム教育風景

大人数ではなく、一人の講師できめ細かい指導ができる少人数とした。

また、常に手元には辞書を置き、自分で積極的に意味を調べる姿勢を身につけさせるようにした。



新プログラム教育風景

日本側から送り込んだ講師による教育を行うことで、発音も日本語の使い方も堅実に即した内容での教育を行っている。

新プログラム教育風景

映像や音声教材を取り入れ、より理解しやすい授業を念頭に行っている。



4 日本文化の教育について

映像教材

日本の高度経済成長期の様子を見せ、技能実習制度の意義を再確認してもらおう



映像教材

昭和初期の日本を見せ、日本人が持っている道德観、価値観等の理解が目的。また、現在急速に発展しつつある中国との共通点を見せ、技能実習制度への意識の強化を図る。

当組合では、来日前の研修時に日本文化・風土・マナーなどをしっかりと教育することは、受入れ企業との日本の習慣に関するトラブルを未然に防ぎ、早く日本社会になじむことで、技能習得の効率化にもつながると考えている。また、受入企業のヒアリング結果でも、日本と中国の価値観の違いによる近隣住人とのトラブル、万引きや窃盗などの犯罪行為にも関連しているとの声もあった。このように入国前に日本文化をしっかりと教育する事は、日本での生活を円滑に送る上で重要と考え、技能実習生予定者が理解しやすいように要点を押さえ、映像とイメージによる視覚的効果を重視したカリキュラムを作成し、教育を行った。

5 建設現場での研修について



映像教材

日本の建設会社における実際の作業内容を見せ、来日前に受けている教育内容と比較できるようにし、どのようなスキルを磨くのが良いか、各自で考えさせるのが狙い。

映像教材

中国とは違い、敷地が狭い中でいかに安全に配慮し、工夫を凝らして工事を行っているかを紹介。



映像教材

日本での技術向上の為に技能検定試験風景の紹介。まずは、技術修得への向上心の必要性を学んでもらう。

映像教材

東京スカイツリー工事現場風景。多くの建設機械、器材、職人が関わって一つの建物を作り上げる過程を紹介。





映像教材

実際の建設現場での作業や注意事項等を紹介し、日本と中国の工法の違いを理解させる。また、日本の現場で使用する専門用語も教える。

映像教材

品質を確保するために、様々な施工方法及び検査も紹介。来日後に多岐にわたる技能を修得できることを教える。

右写真はシリコン材の注入施工状況



映像教材

実際の建設現場の作業で、日本の最先端機器による検査方法等の紹介。左写真は外装タイル付着強度試験実施状況

中国の建設業界と違う、日本での建設業界に於ける安全管理、品質管理、工程管理の重要性を理解させて、各工程毎に統一された基準をクリアしているかの検査が行われて、品質のよい建物が出来る過程を理解させる。

7 プログラム時間割 新プログラム

授業時間配分

来日前日本語検定4級レベル 新プログラム

項 目	時 間 帯	備 考	
起 床	6:00 ~ 6:15		
駆け足(3km~)	6:15 ~ 6:40	体力アップを目標・徐々に距離を延長する事	
朝 朗 読	6:40 ~ 7:00		
朝 食	7:00 ~ 8:00	※食事の時には列を作り順番に 食事の前には「いただきます。」 終了後には「ご馳走様」を言う事	
午前授業	授業1時間目	8:00 ~ 8:45	
	授業2時間目	9:00 ~ 9:45	
	ラジオ体操	9:50 ~ 10:10	日本ラジオ体操第一
	授業3時間目	10:15 ~ 11:00	
	授業4時間目	11:15 ~ 12:00	
ランチタイム	12:00 ~ 13:00		
午後授業	授業5時間目	13:00 ~ 13:45	
	授業6時間目	14:00 ~ 14:45	
	授業7時間目	15:00 ~ 15:45	
	授業8時間目	16:00 ~ 16:45	
夕食タイム	17:00 ~ 18:00		
夜間自習	自習1時間目	18:00 ~ 18:45	指導教師監督必要
	自習2時間目	19:00 ~ 19:45	
	自習3時間目	20:00 ~ 20:45	
就寝(消灯)	22:00~	就寝はお互いに「お休みなさい」を言ってから	

※ 週5日授業(平日授業 40時間/週)、土日休み

旧プログラムでは、基本的な時間割はできているが、自習時間は技能実習生予定者が個人で行うだけで、講師による何らフォローもなかったが、新プログラムでは講師が疑問・質問に対応する監督体制を整えた。
また、三食を全員が同時にとり「いただきます、ごちそうさまでした」の日本の風土、考え方をごく自然に学ぶ場とした。

【新カリキュラム 来日前日本語検定4級レベル】

ひらがな、カタカナ、歌の授業	36時間
発声、簡単な単語	28時間
丁寧語、簡単な会話、簡単な質問、辞書の引き方	32時間
簡単な比較、簡単な意思表示、辞書の引き方	32時間
設定に合わせた会話、状況理解、簡単な作文作成、辞書の引き方	80時間
動詞5段活用、数字、単位、助詞、助動詞、辞書の引き方	48時間
日本語検定4級レベル試験、復習、辞書の引き方	43時間
日本文化、法律、マナー、考え方、諸注意	21時間
映像教材、感想文、発表、日本語ゲーム	32時間
その他、レクリエーション、	8時間
	<hr/>
	合計 360時間 (9週間)

上記カリキュラムを来日前に行う。

カリキュラム・内容は日本より調査員を派遣し調査を行い、検討委員会にて検討し決定した。

特色として、映像教材を多用したこと、また、その映像教材を見ての感想文・発表を日本語にて行わせた。さらに、楽しみながら自然と日本語の会話力が身につくようしりとり等のゲームを行い、日本語を覚えた数が勝敗に結びつくようにしたこと、積極的に日本語を覚えていった。また、辞書を引く習慣を身に付けさせたことで、知らない日本語があっても自分で調べ、その際に関連する日本語も同時に調べられるように工夫した。

来日前日本語研修進捗一覧表

来日前日本語研修進捗一覧表

段階	内 容	日程	試 験	実施	結果
日本語能力①	(1) ひらがなの読み書きができる	1月3日～1月7日			
	(2) カタカナの読み書きができる	1月3日～1月7日			
	(3) 簡単な物の名称の意味が理解できる	1月3日～1月7日			
	(4) 基本的な挨拶ができる	1月3日～1月7日			
	(5) 基本的な礼儀作法ができる	1月3日～1月7日	小テスト		
日本語能力②	(1) 100迄の数字を言える	1月10日～1月14日			
	(2) イラストを見て、物の名称が言える	1月10日～1月14日			
	(3) 100以上の数字が言える	1月10日～1月14日			
	(4) イラストの場所・風景を言える	1月10日～1月14日			
	(5) 基本的な施設・建物の名称が言える	1月10日～1月14日	小テスト		
日本語能力③	(1) 簡単な会話ができる	1月17日～1月21日			
	(2) 基本的な丁寧語が使える	1月17日～1月21日			
	(3) 基本的な質問で使う日本語が使用できる	1月17日～1月21日			
	(4) 曜日、日付、基本的なものを教える単位を理解している	1月17日～1月21日			
	(5) 簡単な否定語が使用できる	1月17日～1月21日	小テスト		
日本語能力④	(1) 簡単な形容詞がついた日本語を使用できる	1月24日～1月28日			
	(2) 基本的な敬語が使用できる	1月24日～1月28日			
	(3) 基本的な謙譲語が使用できる	1月24日～1月28日			
	(4) 簡単な手紙形式の文章が書ける	1月24日～1月28日			
	(5) 簡単な動詞の5般活用が使用できる	1月24日～1月28日	効果測定試験①		

8 送出し機関の研修施設について



送出し機関の食堂風景。壁などには何も掲示物がなく、殺風景である。

改善点

壁にひらがな一覧を掲示。
日常生活において、自然に日本語が目に入るように工夫した。



改善点

。「日常の五心」として、感謝の気持ちを持つ為の心得を日本語にて掲示。

- 一、「はい」という素直な心
 - 二、「ありがとう」という感謝の心
 - 三、「すみません」という反省の心
 - 四、「おかげさま」という謙虚な心
 - 五、「わたしがします」という奉仕の心
- が書かれている。



改善点

日本での生活に備え、日常的に分別等ができるよう、実際のゴミの出し方のポスターを日本より持参し掲示した。

イラストにより、どのように分別するか、日本語を学びながら身につけさせる。

資源ごみ、燃えるごみ、燃えないごみ、粗大ごみ、乾電池など、廃油などの処分方法を細かく記載してある。

改善点

日本の警察が発行しているポスターを掲示。犯罪防止啓発と一緒に、様々な日本語を学ばせるきっかけとして活用した。



改善点

来日後に、犯罪が一番多い万引きに対する認識を持ってもらうことで、犯罪に手をそめるトラブルを未然に防ぐ狙いがある。





交通安全訓練

実際に携帯電話を使用しながら、自転車に乗る等「悪い実例」を体験させる。この指導も基本的に日本語で行うことで相乗効果を狙う。

交通安全訓練

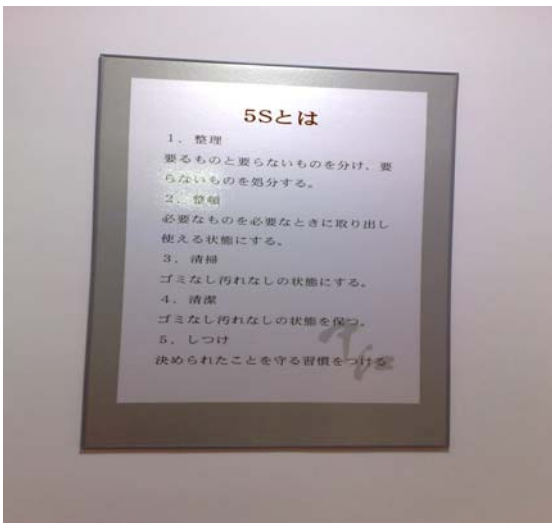
並列走行、二人乗り、傘をさしながらの危険な行為を実際に体験させ、どれだけ危険な行為かを身につけさせるのが狙い。



寝室風景

日本の「5S」の掲示物を寝室に貼ることで、職場や寮生活に必要な整理・整頓などの習慣を身につけさせる。

また、日本語の掲示物を様々な場所に貼ることで、日本語を学ばせるのと同時に、まずは日本語に慣れ親しんでもらうのが目的である。



5Sとは

- 1.整理 要るものと要らないものを分け、要らないものを処分する
- 2.整頓 必要なものを必要な時に取り出し使えるようにする
- 3.清掃 ゴミなし汚れなしの状態にする
- 4.清潔 ゴミなし汚れなしの状態を保つ
- 5.躰 決められたことを守る習慣を付ける

と記載された標語を掲示してある。

敬意の心を表現 お辞儀

お辞儀の意味と重要性

お辞儀は、相手に対しての敬意や存在感を認めるという心の現われです。そのような心が相手にも認めてもらえる正しいお辞儀をしなくては、相手へ対する敬意やお礼、お詫びの心が通じず、反対に悪いイメージを与えてしまったりもします。

お辞儀の仕方

お辞儀には立礼と座礼の2種類があり、また礼の深さで分類すると「最敬礼」「敬礼」「会釈」の3種類があります。

立礼

立礼では背すじはまっすぐにのびします。また、頭もまっすぐに上体にのせ、上体が前傾するのにしたがって移動するようにします。

頭だけ前に落としたり、顎が浮いて頭が後ろに残ったりしないように注意しましょう。

会釈

知人とすれ違ったときなどにする軽い礼です。上半身を15度程度傾けます。

敬礼

目上の人に対してのあいさつや、お礼のとき、また、改まった訪問の際に行なわれるものです。30～45度体を傾けます。そして上体はゆっくりと戻すようにしましょう。

最敬礼

「最敬礼」は直立の姿勢から腰を基点に90度以上体を曲げます。「最敬礼」は日常ではあまり見られませんが、謝罪する時や本当に心から感謝の意を表したい時、また神前や仏前など儀式的な場面で用いられます。

日本には、礼に始まり礼に終わる、という諺があるくらい、社会人として礼儀を重要視します。また、会社以外で地域住民と打ち解けるにも、こちら側から積極的に挨拶を行い、礼儀正しい姿をみせ、日本社会に早く溶け込むようにしましょう。

9 新旧カリキュラムについて

旧カリキュラムにて使用していたのは、下記のような中国国内販売分の教材の目次項目だけで、体系別に区分されていなかった。

第1課 李さんは 中国人です。

2課 これは 本です。

3課 ここは デパートです。

・
・
・

22課 森さんは 毎晩 テレビを 見る

23課 休みの 日、散歩したり 買い物に 行ったり します。

24課 李さんは もうすぐ 来ると 思います。

このように旧カリキュラムでは、語彙、文法、聴解等区分もされておらず、実態にそぐわない例題が多かった。その為、講師の裁量やレベルにより教育内容に大きく差が付き、教育内容の均一化や、必須能力の習得ができないという問題が起きていた。

その為、日本側派遣調査員、日本語講師を交え、検討委員会にて検討し、教育内容を体系分けし、それぞれを何時間かけ、どのように教えるかの検討を行った。

- 1、言語知識（文字・語彙）
 - 課題 1、ひらがな、カタカナの読み書き
 - 課題 2、漢字読み、表記
 - 課題 3、文脈規定
- 2、言語知識（文法）・読解
 - 課題 1、文法
 - 課題 2、内容理解、短文
 - 課題 3、内容理解、中文
- 3、聴解
 - 課題 1、課題理解
 - 課題 2、ポイント理解
 - 課題 3、発話表現
 - 課題 4、即時応答

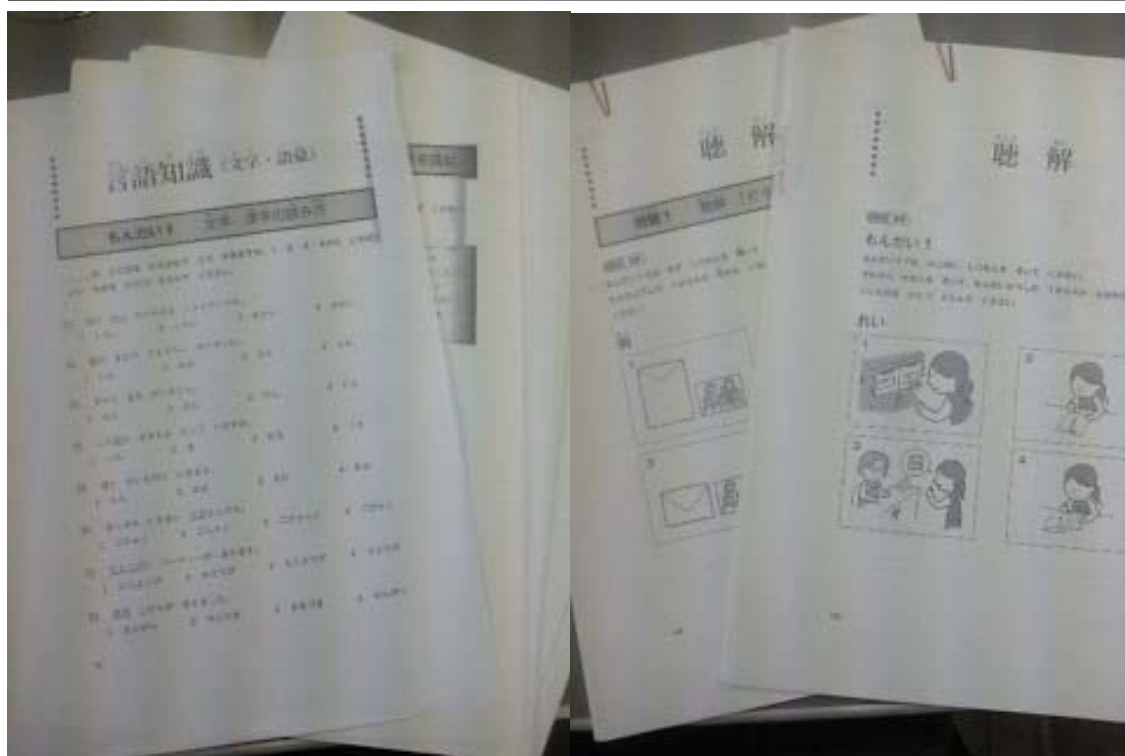
上記の3つに分類し、それぞれで何を身につけるかを分かりやすくまとめる事を行った。

教材自体は市販の教材を使用しているが、それぞれでの例題・内容を日本の実態に即したものにす為、経験豊富な日本語講師によるオリジナル例題や、イラスト等を取り入れた教材も作成した。

また、例題の中に、基本的な挨拶・マナー、日本文化も取り入れ、ごく自然に日本を理解できるような教材・例題を作成し日本の正しいイメージ、把握を行えるようにした。

これにより、日本語検定4級レベル習熟に向け効率的に、効果的で、均一化した研修が可能になった。

作成した日本語検定4級問題



もんだい1 文字・漢字の読み方

_____のことは ひらがなで どう かきますか。 1・2・3・4から いちばん いい ものを えらんで ください。

(1) あの 白い たてものは レストランです。

1 しろい 2 くろい 3 あかい 4 あおい

(2) きっぷは いちまい 五百えんです。

1 ごひゃく 2 ごしゃく 3 ごひゃっく 4 ごぴゃく

(3) 毎週 びょういんへ いきます。

1 まいにち 2 まいしゅう 3 まいつき 4 まいとし

(4) この なかに 水を 入れて ください。

1 すい 2 みつ 3 みず 4 すえ

(5) トイレは 出口の そばに あります。

1 しゅつぐち 2 でぐち 3 いりぐち 4 はいりぐち

もんだい2 文字 文字の書き方

_____のことは どう かきますか。 1・2・3・4から いちばん いい ものを えらんで ください。

(1) そこに くるまを とめないで ください。

1 上めないで 2 正めないで 3 止めないで 4 下らないで

(2) かいぎは なんじまで ですか。

1 何寺 2 何町 3 何時 4 何事

(3) てーぶるの うえを みてください。

1 チーブル 2 ナーブル 3 テーブル 4 ラーブル

(4) デパートで シャツを かいました。

1 音いました 2 員いました 3 買いました 4 貝ました

(5) これは せんえんです。

1 万円 2 千円 3 百円 4 一円

(6) らいしゅう くにへ かえります。

1 口 2 四 3 国 4 西

もんだい3 読解 短い文章を読む

つぎの ぶんを 読んで しつもんを こたえて ください。 こたえは 1・2・3・4から いちばん いい ものを えらんで ください。

(1) ヤンさんは アンナさんから はがきをもらいました。

ヤンさん
おげんきですか。
わたしは 今 海のちかくに います。
毎日 さんぼしたり、本を 読んだり して います。
海は とても きれいです。でも 水が つめたいから
海には 入りません。
_____ アンナ

とい アンナさんは、毎日 何を して いますか。

- 1 さんぼしたり、海に入ったり して います。
- 2 きれいな 海を 見たり、およいだり して います。
- 3 海の ちかくを あるいたり、本を 読んだり しています。
- 4 本を 読んだり、海に 入ったり して います。

(2)

わたしは 大学の とき、日本の えいがを フランス語で みました。 とても、おもしろかったです。日本に ついて いろいろ しりたく なりました。 それで 日本に 来て、日本語を べんきょうして います。
--

とい この人は、なぜ いま 日本に いますか。

- 1 日本の えいがを べんきょうする ためです。
- 2 日本語を べんきょうする ためです。
- 3 フランス語を べんきょうする ためです。
- 4 フランスの えいがを べんきょうする ためです。

7) 新プログラムについて<日本語検定2級レベル>

【日本語検定2級試験データ】

■ 2010(平成22)年 第1回(7月)データ					
	レベル	おうえんしやう じん 応募者数(人)	じゆけんしやう じん 受験者数(人) ※	にんていしやう じん 認定者数(人)	にんていりつ 認定率(%)
こくない 国内	N1	26,225	23,694	9,651	40.7
	N2	24,738	23,126	13,768	59.5
	N3	6,947	6,280	3,051	48.6
	けい 計	57,910	53,100	26,470	49.8
かいがい 海外	N1	73,863	62,938	19,402	30.8
	N2	87,889	74,874	32,530	43.4
	N3	42,227	32,100	12,574	39.2
	けい 計	203,979	169,912	64,506	38.0
こうけい 合計	261,889	223,012	90,976	40.8	

※1 受験者数には一部の試験科目だけを受験した者の数を含む。

(財)日本国際教育支援協会データ

上記データにて、日本語検定2級レベルの合格率は60%を割っており、来日後の日本語研修を抜本的に見直す必要がある。

本モデル事業にて、平成23年度内に技能実習生2年生30名中20名以上を必達すべく、来日後新プログラムを策定する。

具体的には言語知識、語彙、聴解、読解の4分野に分け、聴解に関しては学習効果を向上させる為に、映像教材を活用するものとする。

平成22年度にカリキュラム、教材を取りまとめ、新プログラムの実施と効果測定、改善を行い、平成23年7月3日に実施される日本語能力検定N2(旧2級)を受験させ、目標達成させる。

平成21年度、当組合での日本語検定2級の受験者数は37名、うち、合格者は2名(合格率5%)である。本モデル事業にて、平成23年度に30名の受験、うち18名(合格率60%)を目指すものである。

作成した日本語検定2級問題（言語知識編より抜粋）

点

問題 次の下線を付けた言葉は、どのように読みますか。その読み方をそれぞれの1・2・3・4からひとつ選びなさい。（各1点）

問1 ご依頼の件ですが、お返事はもうしばらくお待ち願えませんか。

(1)(2) (3) (4)

- (1) 依頼 1、えらい 2、いらい 3、えれい 4、いれい
(2) 件 1、かん 2、きん 3、くん 4、けん
(3) 返事 1、はんじ 2、へんじ 3、へんし 4、へんごと
(4) 願え 1、たとえ 2、あらえ 3、あたえ 4、ねがえ

問2 庭園の芝生内には、無断で入らないでください。

(1) (2) (3)

- (1) 庭園 1、にわえん 2、ていえん 3、ていその 4、にわぞの
(2) 芝生 1、しばふ 2、しばせい 3、しばいき 4、しばかり
(3) 無断 1、むだ 2、むだん 3、ぶだん 4、むえん

問3 田舎の暮らしは都会に比べてのんびりしています。

(1) (2) (3)

- (1) 田舎 1、でんえん 2、たしゃ 3、いなか 4、でんしゃ
(2) 暮らし 1、もらし 2、とらし 3、ぼらし 4、くらし
(3) 都会 1、とし 2、とかい 3、どかい 4、とあい

問4 凸凹道を登っていたら、白髪の老人が下りてきた。

(1) (2) (3)

- (1) 凸凹 1、おうとつ 2、ちぐはぐ 3、でこぼこ 4、こうおつ
(2) 白髪 1、しろがみ 2、しらが 3、しろはつ 4、しらがみ
(3) 下りて 1、たりて 2、くだりて 3、おりて 4、さがりて

問5 ホテルでは、部屋の外を浴衣のまま歩くのは、本来マナーに反する行いです。

(1) (2) (3) (4)

- (1) 部屋 1、ぶや 2、ぶしつ 3、へや 4、ぶおく
(2) 浴衣 1、きもの 2、ゆかた 3、たび 4、ころも
(3) 本来 1、げんらい 2、がんらい 3、べんらい 4、ほんらい
(4) 行い 1、おこない 2、ぎょうい 3、とまどい 4、ふるまい

作成した日本語検定2級問題（日本語語彙編より抜粋）

問題 次の下線をつけた言葉は、どのような漢字をかきますか。その漢字をそれぞれの1・2・3・4から一つ選びなさい（各1点）

問1 ちきゅうのかんきょう問題はしんこく化するいっぽうである。

- | (1) | (2) | (3) | (4) |
|-----------|------|------|-----------|
| (1) ちきゅう | 1、宇宙 | 2、地球 | 3、血球 4、救急 |
| (2) かんきょう | 1、頑強 | 2、影響 | 3、感興 4、環境 |
| (3) しんこく | 1、親告 | 2、申告 | 3、深刻 4、嚴重 |
| (4) いっぽう | 1、一方 | 2、他方 | 3、方向 4、傾向 |

問2 おきゃくさまに対しては、心からのえがおでおうたいしましょう。

- | (1) | (2) | (3) |
|-----------|------|----------------|
| (1) きゃくさま | 1、客人 | 2、客様 3、客舎 4、客室 |
| (2) えがお | 1、恵顔 | 2、笑顔 3、微笑 4、愛嬌 |
| (3) 応対 | 1、応待 | 2、横隊 3、応態 4、応対 |

問3 めざまし時計をかけ忘れてつとめさきにおくれてしまった。

- | (1) | (2) | (3) |
|-----------|--------|----------------------|
| (1) めざまし | 1、眼覚まし | 2、目覚まし 3、目醒まし 4、眼醒まし |
| (2) つとめさき | 1、勤め先 | 2、努め先 3、勉め先 4、行方 |
| (3) おくれ | 1、後くれて | 2、後れて 3、遅て 4、遅れて |

問4 五歳のむすめがデパートのバーゲンかいじょうでまいごになった。

- | (1) | (2) | (3) |
|-----------|------|----------------|
| (1) むすめ | 1、従姉 | 2、娘 3、孫 4、息子 |
| (2) かいじょう | 1、会場 | 2、開場 3、会上 4、会館 |
| (3) まいご | 1、枚子 | 2、不明 3、迷子 4、惑子 |

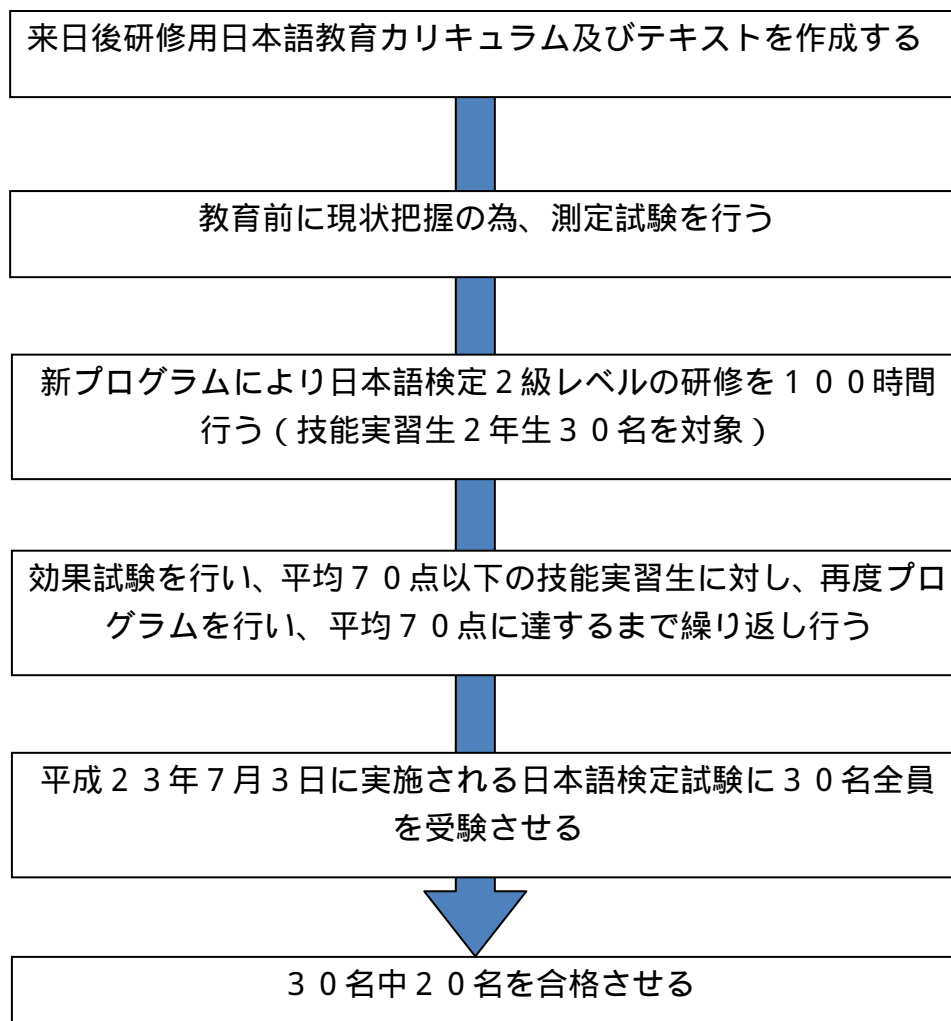
問5 このパソコンのメモリーこうかんは、しろうとのかたには少しむりでしょう。

- | (1) | (2) | (3) | (4) |
|----------|------|----------------|-----|
| (1) こうかん | 1、交換 | 2、交代 3、交替 4、交歓 | |
| (2) しろうと | 1、玄人 | 2、初人 3、素人 4、恋人 | |
| (3) かた | 1、形 | 2、方 3、型 4、人 | |
| (4) むり | 1、無事 | 2、無用 3、無視 4、無理 | |

他にも映像教材を作成し、聴解分野でも教材を作成予定である。

単なる日本語単語でなく、映像等を利用し実際の場面を想定させながら、反復および動作連動させて、具体的な場面イメージをさせることにより理解力の促進と向上をさせる。

本事業の実施ポイントと数値目標



平成23年度より、技能実習2年生、3年生を対象に新教材を使用した日本語能力2級レベルの研修を行う。



作成しているオリジナル教材。

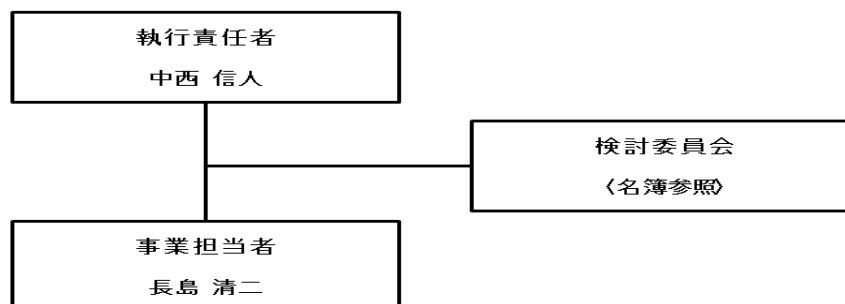
日本語講師による日本語検定2級レベルのチェックを行い、文法・語意、聴解、言語知識の分野に分け、例題、問題、解答による解説を行う予定である。

完成は平成23年度内に行う。

5、事業実施体制

本事業の実施体制の体系図及び構成員の役割分担は以下のとおりである。

体制の体系図



構成員の役割分担

構成員の役割分担は以下のとおりである。

区 分	役 割
執行責任者	本事業の事業内容、運営体制、成果まとめ等に関する全ての事項を総括・管理する。
検討委員会委員	執行責任者の指示に従い、事業内容の各場面における検討、協議し、事業決定する。
事業担当者	執行責任者の指示に従い、事業内容、運営体制、成果まとめ等の素案及び検討資料等の作成、関係者間の連絡調整を行う。事務局としての役割を果たす。

検討委員会の構成（名簿）

検討委員会の構成及び選定理由は以下のとおりである。

氏 名	所 属 等
中西 信人	当組合の代表理事。組織運営の中心的役割を果たしており、当会の運営が効率的に実施できる
茅本 良夫	当組合の専務。技能実習制度に精通しており、専門と技能者育成の両面からの高い知見が活かされる。
長島 清二	技能者育成の専門家及び建設業界の造詣の深さが育成プログラム、カリキュラム、テキスト等の作成に反映することができる。
金 日洙	日本語講師。長期にわたる日本での生活経験と、講師経験により中

国での日本語教育の問題点を把握している。

検討委員会の開催

検討委員会は、事業の主要な進捗段階において開催することとし、3回開催した。各回の開催要領と検討事項は下記のとおりである。

1) 第1回検討委員会

- 1、開催日 平成22年12月13日(月)
- 2、場 所 協同組合メディアバンク・エデュケーション 会議室
- 3、検討事項 研修及び技能実習上の課題について
研修等目標達成について
研修等プログラム概要とテキスト構成について



2) 第2回検討委員会

- 1、開催日 平成23年1月14日(金)
- 2、場 所 協同組合メディアバンク・エデュケーション 会議室
- 3、検討事項 研修等目標達成について
研修等プログラム概要とテキスト構成について
テキスト及び映像教材の内容構成について



3) 第3回検討委員会

- 1、開催日 平成23年3月4日(金)
- 2、場 所 協同組合メディアバンク・エデュケーション 会議室
- 3、検討事項 作成テキストの内容校正について
今後の検討課及び展開等について
事業報告書の構成と内容について



3) 第4回検討委員会

- 1、開催日 平成23年3月11日(金)
- 2、場 所 協同組合メディアバンク・エデュケーション 会議室
- 3、検討事項 報告書の内容と構成について
今後の検討課題について
平成23年度以降の事業実施について



6、実施スケジュール

<日本語検定4級レベル>

検討項目	業務工程						備考
	11月	12月	1月	2月	3月		
調査員による調査		➡		➡			
研修前効果測定		➡					
新プログラム・教材作成			➡				
来日前研修新プログラム実施			➡				
新プログラム効果測定				➡			
新プログラム改善・再履修				➡			
報告書作成					➡		

<日本語検定2級レベル>

検討項目	業務工程						備考
	11月	12月	1月	2月	3月	4月	
調査員による調査		➡					

旧プログラム効果測定		→					
新プログラム作成		→					
新プログラム実施			→				6 カ月 (100H)
新プログラム効果測定				→			
報告書作成					→		

7、取り組みの効果

本事業の取り組みの結果、次のような効果を得ることができた。

研修及び技能実習期間中に於ける技能習得が、当該事業を推進する事によりスムーズに行われ、受入企業にとっても、技能実習生にとっても充実したものとなり、技能実習制度が円滑に運用される事となる。

来日前4級レベル達成及び来日後2級レベル達成の目標を明確にすることにより、技能実習生に目標意識を持たせて、充実した技能実習制度になる。各段階における達成目標に向けた日本語レベル習得状況と、来日前に習得すべき日本文化・風土の内容を設定することができた。

内容：生活習慣（マナー行列の並び方）

ゴミの出し方（分別・リサイクル等）

日本人の心構え、道徳観、価値観

5Sの実践

会社組織の言葉使い、礼儀等

研修及び技能実習の達成目標を確実にするための、日本語に関するカリキュラム構築と重要事項を集約したテキストを作成することができた。内容的には、来日前で日本語検定4級レベルのクリア、日本文化・風土への理解、来日後の日本語検定2級合格のため、の3要素に的を絞り、送出し機関と連携し新規教育プログラムの作成、各段階における教育強化項目、未習熟技能予定者への再履修プログラム対応のテキストを作成できた。

また、視覚的・聴覚的に理解を高める為の映像テキストも、併せて作成することができた。具体的には日本語を教育しながら日本文化・風土を同時に教育できる映画等を利用した、映像テキストを作成できた。

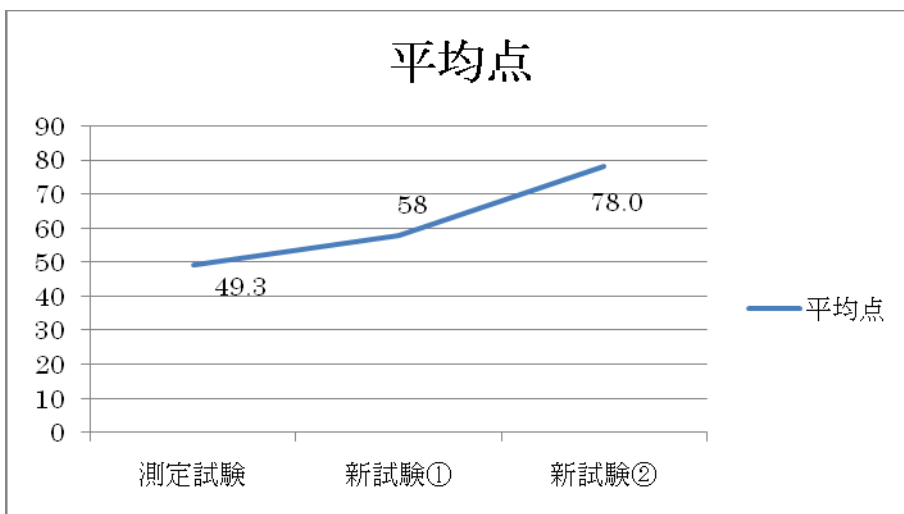
当該事業を実施した事により、技能実習制度における技術習得の効率を高める事が可能となり、技能実習生のスキルアップと日本語能力を向上させる事

が出来たと考える。また、当該事業の実施により、日本語のレベルアップおよび日本語理解力向上により修得技能レベルが向上した技能実習生の情報収集（日本語レベル、習得技術などの必要な情報）を行い、帰国した実習生の分類をしたデータベースを作成することにより、将来的にデータベース管理体制を構築する。

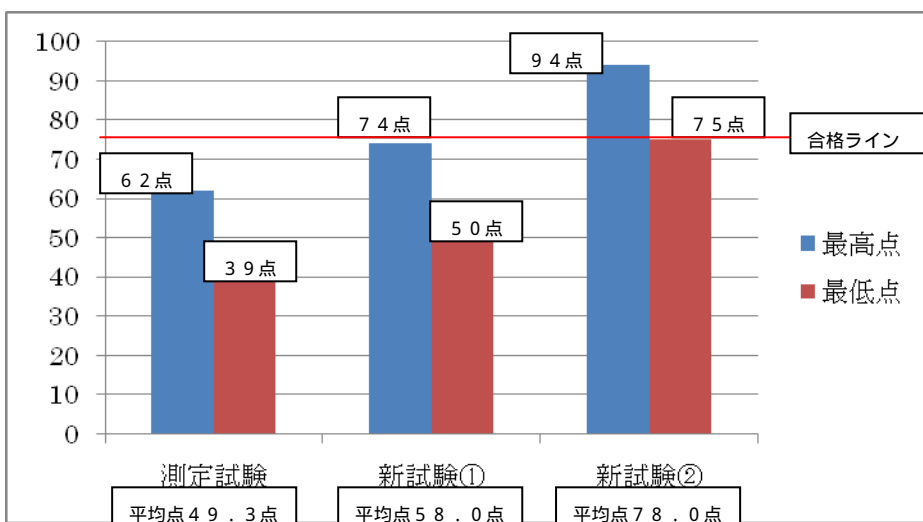
これらの成果を送り出し機関、受け入れ企業や研修等の教育機関で広く活用することによって外国人技能実習生の効率的な日本語習得や知識の習得に役立つものとする。その結果、受け入れ企業の実習現場における作業効率の向上や、技能習得効率の向上、日本企業の海外進出に伴い現地へ帰国した技能実習生等が活躍する場になると考えられる。

日本語検定 4 級レベル結果

< 日本語検定 4 級レベル模擬試験、平均点 >



来日前日本語検定 4 級レベル、最高点、最低点



合格ライン 75 点

来日前日本語検定 4 級レベル試験結果総評

来日前の旧プログラム結果と新プログラム実施結果である。

旧プログラムでは日本語検定 4 級レベル試験において平均点が 49.3 点であるのに対し、新プログラム実施時の平均点では、58 点（8.7 点の向上）と、合格ラインには届かなかったが、2 回目の平均点では 78 点と全員が合格ラインの 75 点を超え、非常に大きな成果がみられた。

新プログラムを更に改良することで、短時間での日本語検定 4 級レベルの習得は可能と判断し、今回策定したカリキュラムや教材の更なる改良を今後も継続して図っていく。

日本語技能検定 4 級レベル 新プログラム 結果表

日本語技能検定4級レベル 新プログラム結果表

氏名	年齢	出身地	学歴	来日	帰国	来日前			来日後		
						測定試験	新試験①	新試験②	測定試験	新試験①	新試験②
1 産超超	30	遼寧省	専門学校卒			45	51	75			
2 付勇	29	遼寧省	職業高校卒			55	60	84			
3 盛占利	31	遼寧省	高校卒			41	59	77			
4 李佳	28	遼寧省	中学校卒			44	52	75			
5 孙萌萌	29	遼寧省	高校卒			53	60	77			
6 夏春雷	32	遼寧省	職業高校卒			55	61	75			
7 王伯寅	30	遼寧省	中学校卒			43	54	80			
8 张宝华	32	遼寧省	高校卒			48	55	76			
9 夏倩倩	32	遼寧省	高校卒			44	53	75			
10 王立娜	32	遼寧省	職業高校卒			52	59	77			
11 丛萍	31	遼寧省	職業高校卒			39	50	76			
12 顾晓	32	遼寧省	高校卒			44	53	75			
13 张雪松	30	遼寧省	大学卒			47	55	82			
14 丛艳艳	33	遼寧省	大学卒			51	62	75			
15 郑灿灿	25	遼寧省	高校卒			49	62	77			
16 孙菲	29	遼寧省	高校卒			55	62	76			
17 夏嵩嵩	29	遼寧省	中学校卒			57	74	94			
18 宋卫娟	26	遼寧省	職業高校卒			62	63	75			
19 张秀丽	23	遼寧省	職業高校卒			53	66	78			
20 刘露	25	遼寧省	大学卒			47	55	79			
21 吴钰	26	遼寧省	高校卒			55	61	75			
22 杨梅	26	遼寧省	高校卒			41	53	81			
23 金承军	28	遼寧省	大学卒			56	62	75			
24 邹华	29	遼寧省	中学校卒			52	60	76			
25 崔桂伟	24	遼寧省	職業高校卒			47	59	76			
26 李玉辉	25	遼寧省	職業高校卒			44	51	88			
27 罗永琼	24	遼寧省	高校卒			58	62	75			
28 张春艳	31	遼寧省	大学卒			49	55	80			
29 于乐元	30	遼寧省	大学卒			50	57	75			
30 荆光明	28	遼寧省	高校卒			43	55	81			
平均点						49.3	58.0	78.0			

日本語検定4級レベル 個人進捗表(フォーマット)別紙挿入

日本語検定4級レベル 個人進捗表(フォーマット)

氏名: 夏葉蕭

I 期間内における訓練内容

期 間	単 位	訓 練 内 容
平成23年1月30日～ 平成23年2月28日	日本語教育	実用日本語教育として、日本語検定4級レベルの習得及び基礎的な日本文化、道徳、礼土、法律の理解。

II 日本語基礎能力 (「評価の基準」ごとに、該当する欄に○を記載)

○:常にできている X:できていない

能力ユニット	自己評価		講師評価		試 験 ①	試 験 ②	評 価 の 基 準	
	○	X	○	X				年 月 日
日本語能力①	○		○		○	○	111 ひらがなの読み書きができる 112 カタカナの読み書きができる 113 簡単な物の名称の意味が理解できる 114 基本的な挨拶ができる 115 基本的な礼儀作法ができる	1/7
日本語能力②	○		○		○	○	116 100までの数字を言える 117 イラストを見て、物の名称が言える 118 100以上の数字が言える 119 イラストの場所・風景を言える 120 基本的な挨拶・物の名称が言える	1/14
日本語能力③	○		○		○	○	121 簡単な名前が言える 122 基本的な単語が使える 123 基本的な質問で使う日本語が理解できる 124 曜日、季節、基本的なものを表せる単位の理解している 125 簡単な否定語が使える	1/21
日本語能力④	○		○		○	○	126 簡単な形容詞がつかい日本語が理解できる 127 基本的な動詞が理解できる 128 基本的な動詞の活用ができる 129 簡単な動詞の否定形が理解できる 130 読物で使う日本語が理解できる	1/28
日本語能力⑤	○		○		○	○	131 日本語でお題が言える 132 日本語での指示を理解できる 133 基本的な会話(日常会話レベル)ができる 134 日本語で簡単な質問ができる	2/4
日本語能力⑥	○		○		○	○	135 簡単な絵本を読むことができ、その意味が理解できる 136 簡単な日本の童話を理解できる 137 自分の意思を日本語で簡単に表現できる 138 少し早い日本語でも大部分を理解できる 139 辞書の引き方、調べ方が理解でき実行できる	2/11
日本文学①	○		○		○	○	140 基本的な文法事項が理解できる 141 基本的な文法事項が理解できる 142 基本的な文法事項が理解できる 143 少し早い日本語でも大部分を理解できる 144 辞書の引き方、調べ方が理解でき実行できる	2/18
日本文学②	○		○		○	○	145 基本的な文法事項が理解できる 146 基本的な文法事項が理解できる 147 基本的な文法事項が理解できる 148 基本的な文法事項が理解できる 149 上級、新編、同級等への対応の進捗を把握している	2/28

(総評・コメント)

試験① 74点 (1/2)

試験② 94点 (2/2)

日本語検定4級レベル 個人進捗表(フォーマット)

氏名 : 董超超

I 期間内における訓練内容

期 間	区 分	訓 練 内 容
平成25年1月31日～ 平成25年2月28日	日本語教育	教員日本語教育として、日本語検定4級レベルの言語及び基礎的な日本文化、道徳、風土、法律の理解。

II 日本語基礎能力 (「評価の基準」ごとに、該当する欄に○を記載)

○: 素にできている ×: できていない

能力ユニット	自己評価		講師評価		証 書 ①	証 書 ②	評 価 の 基 準	年 月 日
	○	×	○	×				
日本語能力①	○		○			○	①1. ひとりの名前を書きかきできる ②2. 数字の読み書きができる ③3. 簡単な物の名前の意味が理解できる ④4. 基本的な挨拶ができる ⑤5. 基本的な動作が書ける	H23.1.7 H23.1.7 H23.1.7 H23.1.7 H23.1.7
日本語能力②	○		○			○	①1. 10以上の数字を書ける ②2. イラストを見て、物の名称が書ける ③3. 10以上の数字が書ける ④4. イラストの場所・風景を書ける ⑤5. 基本的な挨拶・簡単な動作が書ける	H23.1.7 H23.1.11 H23.1.14 H23.1.18 H23.1.18
日本語能力③	○	×	○			○	①1. 簡単な文章が書ける ②2. 基本的な字遣いが書ける ③3. 基本的な質問で使う日本語が理解できる ④4. 曜日、日付、基本的なものを数える単位を理解している ⑤5. 簡単な文章が書ける	H23.1.18 H23.1.18 H23.1.18 H23.1.20 H23.1.20
日本語能力④	○		○			○	①1. 簡単な文章が書ける ②2. 簡単な文章が書ける ③3. 基本的な質問が使用できる ④4. 簡単な字遣いが書ける ⑤5. 簡単な文章が書ける	H23.1.20 H23.1.20 H23.1.20 H23.1.20 H23.1.20
日本語能力⑤	○		○			○	①1. 質問で使う日本語が理解できる ②2. 日本語で説明ができる ③3. 日本語での簡単な理解ができる ④4. 基本的な会話(日常生活レベル)ができる ⑤5. 日本語で簡単な質問ができる	H23.2.3 H23.2.2 H23.2.4 H23.2.4 H23.2.4
日本語能力⑥	○		○			○	①1. 簡単な文章が書ける ②2. 簡単な文章が書ける ③3. 基本的な質問が使用できる ④4. 少し早い日本語でも大抵分る理解できる ⑤5. 簡単な文章が書ける	H23.2.10 H23.2.10 H23.2.11 H23.2.11 H23.2.10
日本文化①	○		○			○	①1. 基本的な道徳が理解できる ②2. 日本のこと(お祭り、季節)について理解できている ③3. 基本的な道徳が書ける	H23.2.10 H23.2.10 H23.2.10
日本文化②	○		○			○	①1. 少し早い日本語でも大抵分る理解できる ②2. 簡単な文章が書ける ③3. 日本の道徳の教育を受け、内容を理解している ④4. 基本的な道徳、礼儀、会話が書ける ⑤5. 上記、神話、習俗等への理解が深いことを理解している	H23.2.10 H23.2.10 H23.2.10 H23.2.24 H23.2.24

(総評・コメント)

試験① 51点 (1/2)

試験② 75点 (3/4)

日本語検定4級レベル 個人進捗表(フォーマット)

氏名：王 玄娜

I 期間内における訓練内容

期 間	区分	訓 練 内 容
平成23年1月3日～ 平成23年2月24日	日本語教育	先立前日本語教育として、日本語検定4級レベルの習得及び基礎的な日本文化、道徳、風土、法律の理解。

II 日本語基礎能力 (「評価の基準」ごとに、該当する欄に○を記載)

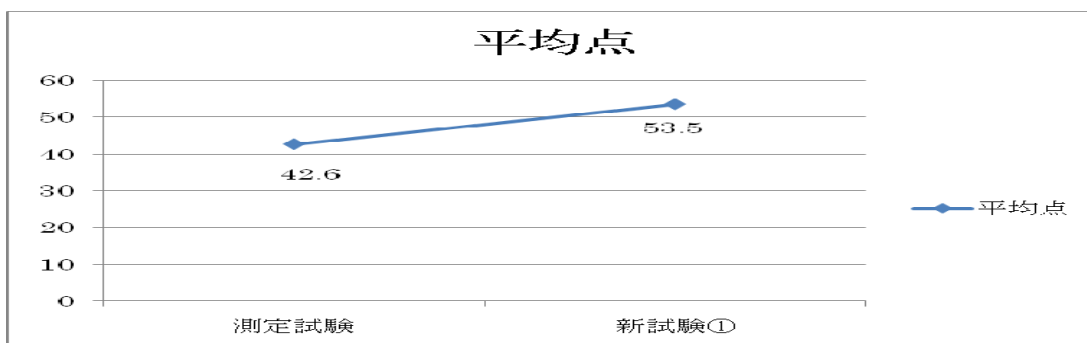
○:常にできている ×:できていない

能力ユニット	自己評価		講師評価		評 価 標 準	評 価 の 基 準	年 月 日
	○	×	○	×			
日本語能力①	○		○		101	101.01.01の音の響きができる	H23.1.7
	○		○		102	カタカナの読み書きができる	
	○		○		103	簡単な物の名称の書写の理解ができる	
	○		○		104	基本的な仮名遣いができる	
	○		○		105	基本的な日本語話ができる	
日本語能力②	○		○		106	日本語の数字を聞き取る	H23.1.14
	○		○		107	イラストを見て、物の名称が書ける	
	○		○		108	10以上の数字が書ける	
	○		○		109	イラストの場所・風景を書ける	
	○		○		110	基本的な挨拶・疑問の名称が書ける	
日本語能力③	○		○		111	簡単な英語ができる	H23.1.20 H23.1.17
	○		○		112	基本的な「敬語」が書ける	
	○		○		113	基本的な質問で能く日本語が使用できる	
	○		○		114	曜日、時刻、基本的なものを伝える表現が理解している	
	○		○		115	簡単な対話の理解ができる	
日本語能力④	○		○		116	簡単な数字の読み・日本語が使用できる	H23.1.20 H23.1.19 H23.1.20
	○		○		117	基本的な数値の理解ができる	
	○		○		118	基本的な構文の理解ができる	
	○		○		119	簡単な手紙形式の文章が書ける	
	○		○		120	簡単な会話の状況が理解できる	
日本語能力⑤	○		○		121	資料で能く日本語が理解できる	H23.2.2
	○		○		122	日本語で説明ができる	
	○		○		123	日本語での内容を理解できる	
	○		○		124	基本的な会話 (日常会話) ができる	
	○		○		125	日本語で簡単な説明ができる	
日本語能力⑥	○		○		126	簡単な日本語を聞いて、その意味が理解できる	H23.2.11
	○		○		127	簡単な日本の地理が書ける	
	○		○		128	自分の説明内容を簡単な日本語で言い換える	
	○		○		129	おしるひの作りかたで、大まかな理解ができる	
	○		○		130	簡単な読み取り、読みかた理解ができる	
多文化理解	○		○		131	基本的な交通手段が理解できる	H23.2.10
	○		○		132	日本のことについて、友へ説明している	
	○		○		133	あることについて理解できている	
	○		○		134	おしるひの日本語で、大まかな理解ができる	
	○		○		135	簡単な読み取り、読みかた理解ができる	
日本文化①	○		○		136	日本の伝統的な慣習を知り、内容を理解している	H23.2.20
	○		○		137	日本の地理の教育を受け、内容を理解している	
	○		○		138	基本的な挨拶、礼儀、言語ができる	
	○		○		139	上り、中敷、浴衣等の着せかたが理解している	
	○		○		140		

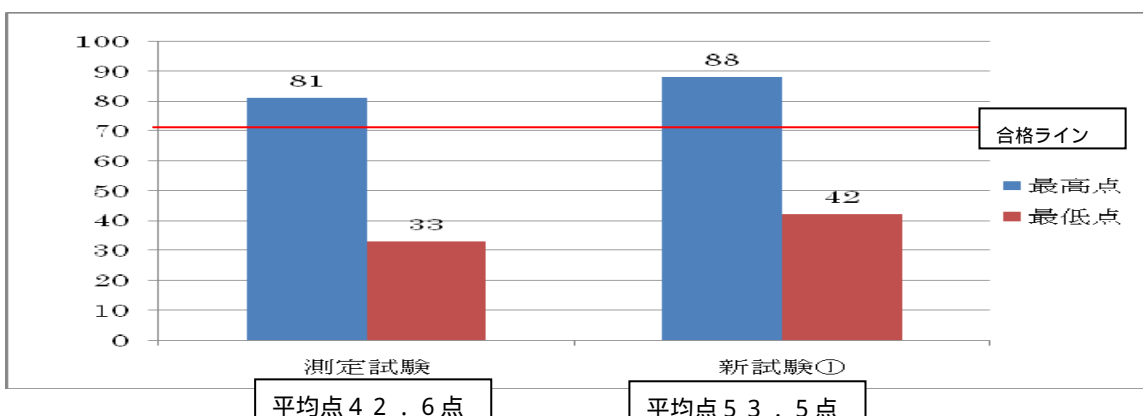
(総評・コメント)

試験① 59点 (1/20)
試験② 77点 (3/20)

日本語検定2級レベル 試験結果（平成23年2月28日現在）
 <日本語検定2級レベル模擬試験、平均点>



<日本語検定2級レベル模擬試験、最高点・最低点>



合格ライン70点

来日後日本語検定2級レベル試験結果総評

来日後の旧プログラム結果と新プログラム実施結果である。

旧プログラムでは日本語検定2級レベル試験において平均点が42.6点であるのに対し、新プログラム実施後の平均点では、53.5点（10.9点の向上）がみられた。しかしながら、目標値である「全員70点以上」に達するまで16.7点の不足がみられ、新プログラムの更なる改善が必要である。

今後、4月、6月と、2カ月置きに測定試験を行い、結果を踏まえて2級レベル新プログラムの改善、教材やカリキュラムの再検証を行い、平成23年7月に行われる日本語能力検定2級に30名中20名以上の合格へ繋げていく。

日本語技能検定2級レベル 新プログラム結果表

氏名	年齢	出身地	学歴	来日	帰国	来日前		来日後		検定結果
						測定試験	新試験①	測定試験	新試験②	
1 列洪宾	28	遼寧省	専門学校卒	平成22年2月24日	平成25年2月23日			51	66	
2 赵传玺	34	遼寧省	職業高校卒	平成22年2月24日	平成25年2月23日			40	59	
3 刘厚川	30	遼寧省	高校卒	平成22年2月24日	平成25年2月23日			41	61	
4 赵秋	25	遼寧省	中学校卒	平成22年3月13日	平成25年3月12日			43	55	
5 陈春霞	20	遼寧省	高校卒	平成22年3月13日	平成25年3月12日			38	49	
6 陈春红	20	遼寧省	職業高校卒	平成22年3月16日	平成25年3月15日			43	55	
7 张敏	22	遼寧省	中学校卒	平成22年3月16日	平成25年3月15日			47	52	
8 于扬	24	遼寧省	高校卒	平成22年3月16日	平成25年3月15日			39	48	
9 姜冰冰	20	遼寧省	高校卒	平成22年3月25日	平成25年3月24日			40	55	
10 周雪莲	22	遼寧省	職業高校卒	平成22年3月25日	平成25年3月24日			51	66	
11 刘明霞	23	遼寧省	職業高校卒	平成22年3月25日	平成25年3月24日			36	49	
12 姜家安	26	遼寧省	高校卒	平成22年3月25日	平成25年3月24日			39	44	
13 朱小燕	20	遼寧省	大学卒	平成22年3月25日	平成25年3月24日			37	46	
14 宋美艳	22	遼寧省	大学卒	平成22年3月25日	平成25年3月24日			40	60	
15 于永梅	23	遼寧省	高校卒	平成22年3月25日	平成25年3月24日			32	42	
16 王丽凤	27	遼寧省	高校卒	平成22年3月25日	平成25年3月24日			35	45	
17 姜华	26	遼寧省	中学校卒	平成22年3月25日	平成25年3月24日			46	58	
18 罗飞	27	遼寧省	職業高校卒	平成22年3月25日	平成25年3月24日			41	60	
19 华成健	29	遼寧省	職業高校卒	平成22年3月27日	平成25年3月26日			40	51	
20 冯光	30	遼寧省	大学卒	平成22年3月27日	平成25年3月26日			81	88	
21 于松	28	遼寧省	高校卒	平成22年3月27日	平成25年3月26日			39	44	
22 王传兵	26	遼寧省	高校卒	平成22年3月27日	平成25年3月26日			50	55	
23 郑志强	31	遼寧省	大学卒	平成22年3月27日	平成25年3月26日			33	42	
24 郑洪辉	31	遼寧省	中学校卒	平成22年3月27日	平成25年3月26日			36	48	
25 乔立国	27	遼寧省	職業高校卒	平成22年3月27日	平成25年3月26日			39	44	
26 赵汝晓	26	遼寧省	職業高校卒	平成22年3月27日	平成25年3月26日			40	50	
27 王旭艳	20	遼寧省	高校卒	平成22年3月27日	平成25年3月26日			36	46	
28 孙亚婷	21	遼寧省	大学卒	平成22年3月27日	平成25年3月26日			40	48	
29 于春苗	26	遼寧省	大学卒	平成22年3月27日	平成25年3月26日			55	56	
30 叶朋杰	24	遼寧省	高校卒	平成22年3月27日	平成25年3月26日			50	60	
						平均点		42.6	53.5	

日本語検定2級レベル 個人進捗表(フォーマット)

氏名： 趙 希

I 期間内における訓練内容

期 間	区 分	訓 練 内 容
平成23年1月3日～ 平成23年6月10日	日本語教育	本学及の日本語教育として、日本語検定2級レベルの語彙及び読解、文化、マナーの教育

II 日本語基礎能力 (「評価の基準」ごとに、該当する欄に○を記載)

○: 常にできている x: できていない

能力ユニット	自己評価	連絡評価	評価	達成率	評価の基準	
					項目	年月日
日本語能力①	○	x	○	x	11 簡単な文章の読み取りができる	H23.1.18
	○	x	○	x	12 簡単なテキストの読み取りができる	
	○	x	○	x	13 簡単なニュースの読み取りができる	
	○	x	○	x	14 簡単な新聞の読み取りができる	
	○	x	○	x	15 簡単な番組の読み取りができる	
日本語能力②	○	x	○	x	11 簡単な新聞の読み取りができる	H23.1.29
	○	x	○	x	12 時刻表から情報検索ができる	
	○	x	○	x	13 簡単な文章の読み取りができる	
	○	x	○	x	14 簡単なニュースの読み取りができる	H23.2.19
	○	x	○	x	15 簡単な記事の読み取りができる	
日本語能力③	○	x	○	x	11 簡単な新聞の読み取りができる (応用)	
	○	x	○	x	12 簡単なテキストの読み取りができる (応用)	
	○	x	○	x	13 簡単な新聞の読み取りができる (応用)	H23.2.26
	○	x	○	x	14 簡単なニュースの読み取りができる (応用)	
	○	x	○	x	15 簡単な記事の読み取りができる (応用)	
日本語能力④	○	x	○	x	11 簡単な新聞の読み取りができる (応用)	H23.3.19
	○	x	○	x	12 時刻表から情報検索ができる (応用)	
	○	x	○	x	13 簡単な文章の読み取りができる (応用)	
	○	x	○	x	14 簡単なニュースの読み取りができる (応用)	
	○	x	○	x	15 簡単な記事の読み取りができる (応用)	H23.3.26
日本語能力⑤					11 簡易語を理解できる	
					12 簡易語を理解できる	
					13 簡単な慣用表現を理解できる	
					14 簡単な慣用表現を理解できる	
					15 「そうです」の表現の使い分けができる	
日本語能力⑥					11 簡単な慣用表現が理解できる	
					12 簡単な慣用表現が理解できる	
					13 自分の意思を伝える日本語を使いこなせる	
					14 簡単な慣用表現などから簡易的推察がつかえることができる	
					15 簡単な慣用表現、慣用句の理解が実行できる	
日本語能力⑦					11 基本的な文法知識が理解できる	
					12 日本語の「オ」の出し方、発明について理解できている	
					13 基本的な文法知識が理解できる	
					14 簡単な文法知識、慣用句の理解が実行できる	
					15 基本的な文法知識が理解できる	
日本語能力⑧					11 日本語の語彙の範囲を把握し、内容を理解している	
					12 日本語の語彙を把握し、内容を理解している	
					13 基本的な語彙、熟語、会話ができる	
					14 基本的な語彙、熟語、会話ができる	
					15 上同、仲間、同僚等への適切な語に注意している	
(総評・コメント)						

日本語検定2級レベル 個人進捗表(フォーマット)

氏名： 李 英明

I 期間内における訓練内容

期 間	区 分	訓 練 内 容
平成23年1月3日～ 平成23年6月30日	日本語教育	海外赴きの日本語教育として、日本語検定2級レベルの習得及び漢語、文化、マナーの教育

II 日本語基礎能力 (「評価の基準」ごとに、該当する欄に○を記載)

○: 常にできている ×: できていない

能力ユニット	自己評価		講師評価		試験①	試験②	評 価 の 基 準	年 月 日
	○	×	○	×				
日本語能力①	○	×	○	×	○	○	① 簡単な文脈の読み取りができる ② 簡単なニュースの読み取りができる ③ 簡単なポスターの読み取りができる ④ 簡単な説明の読み取りができる ⑤ 簡単な手紙の読み取りができる ⑥ 簡単な案内の読み取りができる ⑦ 時刻表から情報読み取りができる ⑧ 簡単な支那の読み取りができる ⑨ 簡単なメモの読み取りができる ⑩ 簡単な記事の読み取りができる	H23.1.8 H23.1.29 H23.2.12
日本語能力②	○	×	○	×	○	○	① 簡単な広告の読み取りができる (応用) ② 簡単なニュースの読み取りができる (応用) ③ 簡単な説明の読み取りができる (応用) ④ 簡単なポスターの読み取りができる (応用) ⑤ 簡単な手紙の読み取りができる (応用) ⑥ 簡単な案内の読み取りができる (応用) ⑦ 時刻表から情報読み取りができる (応用) ⑧ 簡単な支那の読み取りができる (応用) ⑨ 簡単なメモの読み取りができる (応用) ⑩ 簡単な記事の読み取りができる (応用)	H23.2.26 H23.3.19 H23.3.26
日本語能力③	○	×	○	×	○	○	① 簡単な支那の読み取りができる (応用) ② 簡単なメモの読み取りができる (応用) ③ 簡単な記事の読み取りができる (応用)	H23.3.26
日本語能力④							① 漢語を理解できる ② 漢字語を理解できる ③ 簡単な漢語表現を理解できる ④ 簡単な漢語詞を理解できる ⑤ 「どうです」の表現の使い分けができる ⑥ 問題を読むことができる。その意味を理解できる ⑦ 簡単な日本の新聞が読える ⑧ 自分の意見表明を日本語をいい表現できる ⑨ 新聞の見出しなどから情報の概要をつかむことができる ⑩ 評書の引き方、調べ方が理解でき実行できる ⑪ 基本的な交渉表現が理解できる	
日本文化①							① 日本の慣習の出し方・お題に合う表現できている ② さらについで説明できている ③ 少し早い日本語でも大部分を理解できる ④ 評書の引き方、調べ方が理解でき実行できる	
日本文化②							① 日本の時事問題や慣習を知り、内容を理解している ② 日本の地理をみて、位置がわかる ③ 基本的な料理、礼儀、お辞儀ができる ④ 上司、行動、同僚等への対応の違いを理解している ⑤	
(講師コメント)								

日本語検定2級レベル 個人進捗表(フォーマット)

氏名 : 宇 聡

I. 期間内における訓練内容

期 間	区分	訓練内容
平成23年1月3日～ 平成23年4月30日	日本語教育	各日課の日本語教育として、日本語検定2級レベルの習得及び語彙、文化、マナーの教育

II. 日本語基礎能力 (「評価の基準」ごとに、該当する欄に○を記載)
○: 習得できている ×: できていない

能力ユニット	自己評価		講師評価		試験 ①	試験 ②	評価の基準	年 月 日
	○	×	○	×				
日本語入力①	○	○	○	○	○	○	11 簡単な文章の読み取りができる	H23.1.8
	○	×	○	○	○	○	12 簡単な文法上の読み取りができる	
	○	○	○	○	○	○	13 簡単な文法上の読み取りができる	H23.1.19
	○	○	○	○	○	○	14 簡単な単語の読み取りができる	
日本語入力②	○	×	○	○	○	○	15 簡単な文法上の読み取りができる	H23.2.19
	○	×	○	○	○	○	16 簡単な文法上の読み取りができる	
日本語入力③	○	×	○	○	○	○	17 簡単な文法上の読み取りができる (応用)	H23.3.19
	○	×	○	○	○	○	18 簡単な単語の読み取りができる (応用)	
日本語能力①	○	×	○	○	○	○	19 簡単な単語の読み取りができる (応用)	H23.3.26
	○	×	○	○	○	○	20 簡単な単語の読み取りができる (応用)	
日本語能力②	○	○	○	○	○	○	21 簡単な単語の読み取りができる (応用)	
	○	○	○	○	○	○	22 簡単な単語の読み取りができる (応用)	
日本語能力③							23 簡単な単語の読み取りができる	
							24 簡単な単語の読み取りができる	
日本語能力④							25 「どうです」の表現の使い分けができる	
							26 簡単な文法上の理解ができる	
日本語能力⑤							27 簡単な文法上の理解ができる	
							28 簡単な文法上の理解ができる	
日本語文化①							29 簡単な文法上の理解ができる	
							30 簡単な文法上の理解ができる	
日本語文化②							31 簡単な文法上の理解ができる	
							32 簡単な文法上の理解ができる	
日本語文化③							33 簡単な文法上の理解ができる	
							34 簡単な文法上の理解ができる	

8、課題及び対応策

本事業の結果を踏まえ、今後の課題とその対応に向けた内容は次のとおりである。

実施状況の検証

研修及び技能実習の実施に際し、日本語レベル向上(4級または2級レベル)が得られているか、また、実施方法が適切であるかを判断し、改善を図るためには、習得した日本語による理解力等を学習段階において、客観的且つ統一的な習熟度を把握する必要がある。

資格試験等の取得について、一定の評価は得られたと考えられるが、実習現場以外でも日本文化や風土を理解し、周囲の日本人との軋轢を避け、日本社会から受け入れられる幅広い知識等を修得する必要がある。

フォローアップ研修時や、年間の中間時等において、評価システム等を活用し検証を行うことが望まれる。

また、その結果については、弊社・送出し機関・受入れ企業などの関係機関が情報を共有し、個々の対応でなく研修生事業全体としての機能アップを図っていく必要がある。

技能実習生等の人的ネットワークの構築

技能実習生が帰国し、進出した日本企業等の現場で活躍する為には、働く場の情報を提供していく必要がある。そのために日頃から、連絡が取れる体制を構築する必要がある。現在、急速に発達していくインターネット環境や携帯電話等を活用した連絡体制の整備を弊社・送出し機関・受入れ企業などの関係団体が連携して構築に努めるものとする。

9、今後の見通し・展開

(1) 本事業の結果を活用するなどの今後の見通し展開については次のとおりである。

当組合に関係する企業・関連団体で、外国人技能実習生等を受け入れている企業、または今後受け入れを検討している企業に対し、本事業の成果を提供し、有効活用していく。

本事業で構築したシステムや、テキスト等の活用により、効率的な研修の実施を人材育成に寄与できるものとする。

外国人を対象とした、当組合で実施する研修システムとして活用が可能であり、関連企業への導入が期待される。

紙ベースのテキスト及び映像テキストについては、すでに技能実習中の人に提供することにより、反復演習テキストとしての活用が期待できる。

日本語検定2級合格に的を絞ったテキスト構成となっていることから、これを活用することにより研修目標をクリアできるものと期待する。

(2) 実施予定内容<日本語検定4級レベル>

新プログラムによる平均点の向上(49.3点 78点)

新プログラム・新カリキュラムの普及(平成23年度以降)

モデル事業としての標準化

入国後の円滑な技能取得につながる日本語能力の向上

(3) 実施予定内容 <日本語検定2級レベル>

旧プログラム問題点

- ・教材が決まっていない
- ・効果が薄い(日本語検定2級合格レベルにまで達しない)

新プログラム策定

- ・効果が高く、使いやすい教材の選定
- ・新プログラム内容の策定
- ・オリジナル教材の作成
- ・映像教材の作成

新プログラム実施

- ・新プログラム実施
- ・新プログラム実施後、効果測定
- ・教材等の改善、再検証
- ・技能実習生2年生、合格レベルへ

日本語検定2級受験

- ・平成23年7月3日予定(30名受験)

新プログラム検証

- ・問題点の取りまとめ
- ・新プログラム内容検証、改善
- ・使用教材の再検証、改善、運用方法検討
- ・修正版新プログラム実施、効果検証

目標達成

日本語検定2級(30名中20名以上合格)

平成23年度 技能実習生のデータ集積・データベースの構築

平成24年度 データベースの運用、中国進出企業への情報提供

データベース フォーマット 別紙挿入

技能実習生データベース			写真
来日	年	月 日	
帰国	年	月 日	
実習先			
読み			
氏名	歳		
誕生日	年	月 日	
取得資格			
日本語検定 レベル	4級	年 月 日	
	2級	年 月 日	
実習評価			
現住所			
連絡先			
現在の仕事			
データ作成日	年	月 日 担当:	

技能実習生データベース			写真
来日	年	月 日	
帰国	年	月 日	
実習先			
読み			
氏名	歳		
誕生日	年	月 日	
取得資格			
日本語検定 レベル	4級	年 月 日	
	2級	年 月 日	
実習評価			
現住所			
連絡先			
現在の仕事			
データ作成日	年	月 日 担当:	

	氏名	年齢	出身地	學歷	来日	県国	現住所	連絡先	現状	日本語能力	所持資格	業種 経験年数
1												
2												
3												
4												
5												
6												
7												
8												
9												
10												
11												
12												
13												
14												
15												
16												
17												
18												
19												
20												
21												
22												
23												
24												
25												
26												
27												
28												
29												
30												
31												
32												
33												
34												
35												

(4) 今後の事業展開

	平成22年度	平成23年度	平成24年度
モデル事業効果測定・分析			
新プログラムの導入及び検証			
データベース化書式策定			
データ・蓄積			
研修プログラム告知			
データベース化			
情報提供			
P R			

(5) まとめ

当該事業を積極的に使ってもらえるように能動的かつ本組合ならではのPR方法については以下のように実施する予定です。

当該事業を組合員(188社)の為に実施する中心事業とし、組合組織の内部に於いて総会等の定例会を開催する時に周知徹底を図る。

当組合が加入している全国ビジネスサポート協同組合連合会(<http://www.nbcc.or.jp/>)に於いて当該事業推進の為、特別委員会を設置し、会員組合(全国31組合)及び所属員企業(全国約40,000社のうち、建設業に関連している企業)に周知徹底を図る。

国際研修協力機構企業部建設班(<http://www.jitco.or.jp/>)に対し、データベースおよび日本語教育新プログラムの推奨・周知要請を図る。

中国側送出機関【国家外国専門家局(8団体) 中日研修生協力機構(243団体)】に対し、当該事業の周知徹底を図る。

データベース化した情報については、現在、技能実習制度の事前研修、技能実習生帰国者の復職後の支援も含め、より高度なスキルアップを目指せる企業とのマッチングを行う。このような事業を目的とした団体である社団法人大連海外建設人材協会と協議をし、次項のような支援体制を構築する予定である。

尚、データベース登録者は個人情報保護の観点から、実習生本人、送出し機関・受入れ機関に理解・協力を得られるよう協議が必要だが、現在、弊組合に在籍している実習生(合計60名)登録を皮切りに、毎年、在籍者全員の登録(本年と同数程度)を目指す。

支 援 体 制 図

